

2021年度 海洋教育 パイオニアスクールプログラム

実践記録集



糸満市教育委員会

日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

海洋教育センター
CENTER FOR OCEAN LITERACY AND EDUCATION

笹川平和財団
海洋政策研究所

あいさつ

2021年度の糸満市教育委員会における「海洋教育パイオニアスクールプログラム」に係る取組のまとめとして実践記録集を発刊するにあたり、ごあいさつを申し上げます。

本市では、昨年度に引き続き、小学校4校（糸満小学校、糸満南小学校、高嶺小学校、米須小学校大度分校）、中学校2校（糸満中学校、高嶺中学校）、これに沖縄水産高等学校を加えた計7校で、「～海人が活躍した糸満の海を学ぼう～」をテーマに海洋教育の推進に取り組んで参りました。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染症による臨時休業や緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の適用が相次ぎ、計画していた取組の見直しや中止を余儀なくされました。これまでの経験を踏まえ、各学校ではオンラインを活用した講演会や実習、県外児童生徒との交流学习等、取組の幅を広げ実践して参りました。

また、九州・沖縄地区で海洋教育を実践している教育委員会や学校と「九州・沖縄海洋教育連絡協議会」で交流する機会をいただき、互いの実践について情報交換を行い、より広い交流を展開することができました。昨年12月には、県内で同じく海洋教育に取り組んでいる竹富町が主催した「令和3年度竹富町海洋教育サミット」に市内実践校を代表して糸満中学校の1年生5名が参加し、自校における海洋教育の取組を堂々と発表いたしました。このサミットでは、竹富町の小中学校がそれぞれの地域の特色や伝統文化、伝統芸能等と海洋教育を関連させた実践発表に多くの学びを得るとともに、同じ沖縄県でも海との関わり方の違いを実感し、自分たちが住んでいる地域の良さを再認識する機会ともなりました。

この実践記録集には、本年度の各学校の実践の紹介のほか、成果物や成果報告パネル展等も掲載しております。糸満市の海洋教育の歩みと児童生徒の成長を記録に残し、今後の更なる充実・発展に生かしていきたいと思っております。

海洋教育パイオニアスクールプログラムの実践も最終年度となり、これまでの取組の集大成として「糸満市海洋教育副読本『糸満の海』」の作成にも取り組み、過去から現在、未来へと糸満市の海の移り変わりが学べる内容とともに、糸満市の特色を生かした体験活動実践事例、海洋教育を進めるにあたって役立つ情報等を掲載しております。この副読本『糸満の海』を活用し、プログラム終了後も海洋教育の取組を継続できるように期待しております。

末筆となりますが、この実践記録集を発行するにあたり、各種資料を提供していただいた各学校の諸先生方に感謝申し上げます。また、日本財団、東京大学海洋教育センター、笹川平和財団海洋政策研究所、さらに沖縄県教育委員会、島尻教育事務所の皆様をはじめ、本プログラムにご協力いただきました各関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

令和4年3月

糸満市教育委員会
教育長 幸地 政行

海洋教育とは

海洋教育は「海洋と人との共生」という大きな課題に向かい、その実現に向けて必要な知識や技能を身につけ、行動できるような人材の育成を目指すものです。

海洋教育の定義

人類は、海洋から多大なる恩恵を受けるとともに、海洋環境に少なからぬ影響を与えており、海洋と人類の共生は国民的な重要課題である。海洋教育は、海洋と人間の関係についての国民の理解を深めるとともに、海洋環境の保全を図りつつ、国際的な理解に立った平和的かつ持続可能な海洋の開発と利用を可能にする知識、技能、思考力、判断力、表現力を有する人材の育成を目指すものである。この目的を達成するために、海洋教育は海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する学習を推進する。

海洋教育の4つのキーワード

海洋教育では、「海に親しむ」ことから始まり、「海を知る」ことで海への関心を高め、さらに海と人との共生のために「海を利用」しながら「海を守る」ことの大切さを学んでいきます。

海に親しむ

海の豊かな自然や身近な地域社会の中での様々な体験活動を通して、海に対する豊かな感受性や海に対する関心等を培い、海の自然に親しみ、海に進んでかかわろうとする児童・生徒を育成する。

海に親しむ

海を知る

海を知る

海の自然や資源、人との深いかかわりについて関心を持ち、進んで調べようとする児童・生徒を育成する。

海を守る

海と人との共生

海を利用する

海を守る

海の環境について調べる活動やその保全活動などの体験を通して、海の環境保全に主体的にかかわろうとする児童・生徒を育成する。

海を利用する

水産物や資源、船舶を用いた人や物の輸送、また海を通じた世界の人々との結びつきについて理解し、それらを持続的に利用することの大切さを理解できる児童・生徒を育成する。

海洋教育のコンセプト概要図

糸満市の海洋教育について

糸満市教育委員会

1. 方針

- (1) 「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の目的である「海」にかかわり、地域の「海」や行事、歴史等を学び、その過程で地域資源と深く関わりながら、未来の糸満市を担う児童生徒の育成を目指す。
- (2) 「海洋教育パイオニアスクールプログラム」の財源を活用しながら、体験学習や探究型学習を実施し地域と学校が繋がる、持続可能な取組を模索する。
- (3) 教育課程特例校として教科を新設し、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と連携し、地域学校協働活動として持続可能な特色ある取組を目指す。
- (4) 「海洋教育パイオニアスクールプログラム」を通して、ESD（持続可能な開発のための教育）・SDGs（持続可能な開発目標）と連動させ、現代社会の課題を自らの問題として捉え、身近な疑問や課題から取り組み、課題の解決につなげる新たな価値観や行動を生み出す児童生徒の育成を目指す。

2. 対象校（計7校）

- | | |
|----------------|-----------------|
| ① 糸満市立糸満小学校 | ② 糸満市立糸満南小学校 |
| ③ 糸満市立高嶺小学校 | ④ 糸満市立米須小学校大度分校 |
| ⑤ 糸満市立糸満中学校 | ⑥ 糸満市立高嶺中学校 |
| ⑦ 沖縄県立沖縄水産高等学校 | |

3. 教育課程特例校について

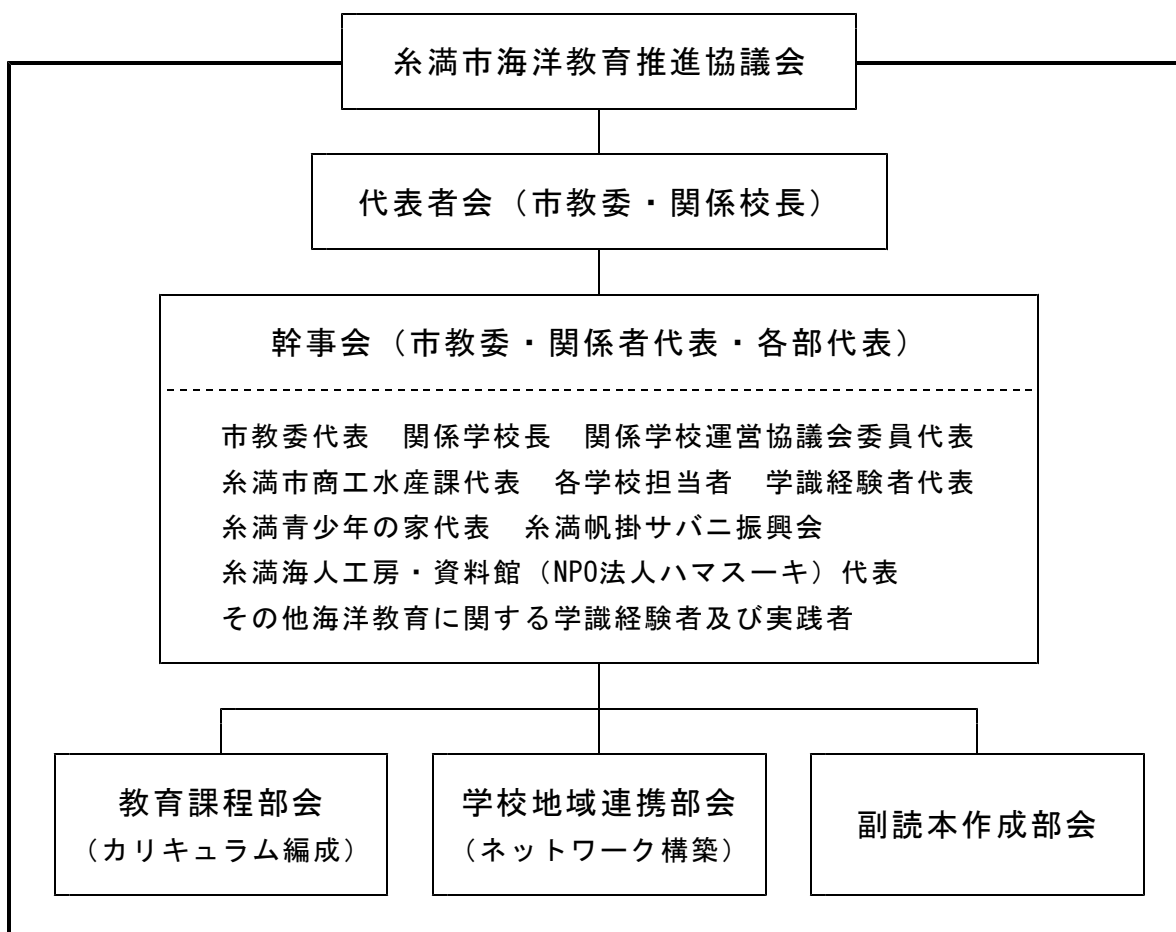
- (1) 教科名 「海人科（うみんちゅか）」 ～海人が活躍した糸満の海を学ぼう～
- (2) 特例校対象
 - ① 糸満市立糸満小学校
 - ② 糸満市立糸満南小学校
 - ③ 糸満市立高嶺小学校
 - ④ 糸満市立糸満中学校
 - ⑤ 糸満市立高嶺中学校

4. 具体的な取組

- (1) 「海に親しみ」「海を知り」「海を守り」「海を利用する」等、海洋教育の取組の実践。（各学校）
- (2) 上記(1)の取組の際には、地球規模の海洋問題（SDGs等）の探究や地域との連携、課題解決を見据えた学習等の学校や地域の特色を活かした取組を推進すること。（各学校）
- (3) 目指す資質・能力を明確にし、取組の過程で課題の発見と解決に向けて主体的・対話的で深い学びを取り入れた探究型学習を意識した学習活動を目指す。（各学校）
- (4) 成果を保護者・地域はもとよりマスコミやWEBを活用し対外的に発信していく。（各学校・市教委）

- (5) 教育課程の編制については、生活科を含む教科横断的、総合的な学習の時間、特別活動の時間のいずれかを削減し、3時間～20時間程度の範囲とする。(各学校)
- (6) ESD・SDGs及びキャリア教育を網羅した持続可能で系統的な海洋教育カリキュラムの開発を目指す。(協議会部会)
- (7) 持続可能で系統的なカリキュラムを実施するための副読本を作成する。
(2021年度完成予定＝副読本部会)
- (8) 海洋教育をテーマとした教育課程特例校の設置を目指す。(市教委)
- (9) 海洋教育推進のために支援機関と連携したネットワークの構築を目指す。
(協議会部会)
- (10) 年度ごとに、申請、変更、報告(まとめ)を行い、2021年度中に方針の見直しを行う。(予算減少に伴う取組を模索)
- (11) 実施体制を充実させるために、以下の糸満市海洋教育推進協議会を設置する。

5. 組織図



令和3年度 糸満市教育委員会 年間実施スケジュール

月	日	曜日	会議、研究会、発表会等	内容
5	18	火	第1回幹事会	①2021年度海洋教育パイオニアスクールプログラムの説明
5	18	火	第1回学校地域連携部会	①2021年度海洋教育パイオニアスクールプログラム取組内容、予算、提出物等の説明
5	26	水	第1回副読本作成部会 (Zoomでのオンライン会議)	①糸満市海洋教育副読本 内容方針について ②編集割り振り(案)について
6	18	金	九州地域海洋教育連絡協議会 オンライン博多会議	糸満市教育委員会 指導主事 平田和也が Zoom によるオンライン会議に参加
6	22	火	第2回副読本作成部会	①糸満市海洋教育副読本 内容方針(再提案) について ②編集割り振りについて
9	21	火	第3回副読本作成部会	①割当担当箇所の進捗状況について ②今後の作業内容の確認
11	6	金	第2回学校地域連携部会	①2021年度海洋教育パイオニアスクールプログラムの取組内容、予算、提出物等の説明について ②2022年度海洋教育パイオニアスクールプログラムの申請について ③竹富町海洋教育サミットについて
11	29	月	第4回副読本作成部会	①校正紙の修正点の確認について ②今後の作業内容の確認
12	21	火	令和3年度竹富町海洋教育サミット	糸満市立糸満中学校(1学年:5名)が参加し、糸満市海洋教育の取組実践報告を行い、竹富町の児童生徒と交流した
1	18	火	第5回副読本作成部会 (Zoomでのオンライン会議)	①校正紙の修正点の確認について ②今後の作業内容の確認
1	21	金	海洋教育こどもサミット2021 in おおむた	新型コロナウイルス感染症による臨時休業となり、職員がZoom による視聴参加
2	1	火	第6回副読本作成部会 (Zoomでのオンライン会議)	①校正紙の修正点の確認について ②今後の作業内容の確認
2	14	月	第7回副読本作成部会 (Zoomでのオンライン会議)	①校正紙の修正点の確認について ②今後の確認
3	14 5 18	月 々 金	令和3年度海洋教育活動報告パネル展示	各学校における海洋教育の今年度の活動をまとめた掲示物を、糸満市役所1F市民ホールで掲示
3	18	金	第2回幹事会	①2021年度海洋教育パイオニアスクールプログラムの報告 ②糸満市海洋教育副読本「糸満の海」について ③次年度以降の取組について

糸満市教育委員会海洋教育推進協議会設置要綱

平成31年4月15日施行

令和2年6月29日改定

(設置)

第1条 糸満市における海洋教育を推進するため、糸満市海洋教育推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(目的)

第2条 「海洋教育パイオニアスクールプログラム」事業（以下「海洋教育という」）を推進のために、教育委員会・学校・地域・関係機関が連携し、持続可能なカリキュラムの編成、副読本の作成、ネットワークの構築等を目的とする。

(所掌事務)

第3条 協議会の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 海洋教育推進のための方策の検討及び決定
- (2) 海洋教育推進のための計画策定
- (3) 海洋教育に関する単元の開発及び教育課程の策定
- (4) 海洋教育に関する副読本の作成
- (5) 関係団体の連携構築に関する事項
- (6) 協議会の運営等に関し必要な事項
- (7) その他海洋教育推進のために必要な事項

(組織)

第4条 協議会は、別表に掲げる関係機関、関係団体及び海洋教育に関し専門的知識を有する者等をもって構成する。

2 協議会は、代表者会及び幹事会、教育課程部会、学校地域連携部会、副読本作成部会によって組織する。

3 教育長は、第1項の構成員の中から前項に規定する会及び部会の種類に応じて適切と認める者を当該会及び部会の委員として選任するものとする。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長及び副会長を置き、それぞれ代表者会委員の互選により定める。

2 会長は、会議を総括し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故又は病気等で欠席した場合は、その職務を代理する。

(委員の任期)

第6条 委員の任期は、3年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(代表者会)

第7条 代表者会の委員は教育委員会事務局と関係学校校長で構成する。

- 2 代表者会は、第2条に掲げる事務全体の検討及び幹事会からの報告を受けて活動状況の評価を行うなど、協議会の運営方針について協議する。
- 3 代表者会は、毎年2回開催し、会長が招集する。ただし、必要とする場合は、臨時で開催することができる。
- 4 代表者会の議事は、出席委員の過半数で議決するものとする。

(幹事会)

第8条 幹事会の委員は別表に掲げる者で構成する。

- 2 幹事会は、協議会の活動を効果的に推進するため第2条に掲げる事項について協議する。
- 3 幹事会は、年4回程度開催し、事務局が招集する。ただし、必要とする場合は、臨時で開催することができる。
- 4 会議の総括は、会長又は副会長及び教育委員会事務局が行う。

(教育課程部会)

第9条 教育課程部会の委員は別表に掲げる各学校の教務主任又は研究主任で構成する。

- 2 教育課程部会は、協議会の活動を効果的に推進するため第2条の(3)及び(7)に掲げる事項について協議する。
- 3 教育課程部会に部長及び副部長を置き、それぞれ部会委員の互選により定める。

(学校地域連携部会)

第10条 学校地域連携部会の委員は別表に掲げる各学校の教頭及び海洋教育担当教諭等と関係団体の代表者で構成する。

- 2 学校地域連携部会は、協議会の活動を効果的に推進するため第2条の(2)及び(5)(7)に掲げる事項について協議する。
- 3 学校地域連携部会に部長及び副部長を置き、それぞれ部会委員の互選により定める。

(副読本作成部会)

第11条 副読本作成部会の委員は別表に掲げる教育委員会事務局と各学校の代表者で構成する。

- 2 副読本作成部会は、協議会の活動を効果的に推進するため第2条の(4)及び(7)に掲げる事項について協議し、必要な場合、別表に掲げる関係団体の代表者等を招聘し、意見を聴取し助言を受けることができる。
- 3 副読本作成部会に部長及び副部長を置き、それぞれ部会委員の互選により定める。

(関係機関等への出席依頼)

第12条 協議会は、必要があると認めるときは、同協議会以外の関係機関等に対し、会議への出席を求め意見を聴くことができる。

(事務局)

第13条 協議会の事務局は、教育委員会学校教育課に置く。

(その他)

第14条 この要綱に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が代表者会に諮って別に定める。

附 則

この要綱は、平成31年4月15日から施行する
令和 2年6月29日改定

別表

糸満市教育委員会 関係学校校長・教頭・教務主任・関係学校海洋教育担当及び教職員等
糸満市商工水産課代表
市内関係学校学校運営協議会委員代表
市内PTA代表
糸満帆掛サバニ振興会代表
糸満海人工房・資料館（NPOハマスーキ）代表
糸満青少年の家代表
学識経験者代表
その他海洋教育推進に関し必要と認める団体等の代表

糸満市立糸満小学校



令和3年度 海洋教育 年間指導計画 糸満小学校

学校教育目標		思いやりのある 進んで学ぶ たくましい子									
月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年			【図工科】 いっしょに おさんぽ ②～④h	【生活科】 きせつと なかよし 「はる なつ」 ⑩h	【生活科】 なかよくなるうね 小さなともだち⑩ 【国語科】 はなしたいな	【国語科】 のりもののことを しらべよう ⑬h 【国語科】 はっけんしたよ⑧	【道徳】 わたしたちの 国や町みつけて みよう			【国語科】 すきなところを 見つけよう ⑫ 「スイミー」	
2年		【生活科】町が 大好き探検隊 「漁港探検」⑭h 【依頼】 糸満漁協	【生活科】めざ せ生き物はかせ ⑩h 「浜辺の 生き物」	【道徳】 まいごになった 赤ちゃんくじら ①h							
3年		【総合】 海人工房見学 ⑤h				【総合】 砂浜探検	【総合】 北名城ビーチ 探検 ③h	【図工科】 クリスマスリース づくり ②h			
4年			【社会科】ごみはどこへ ⑬h		【社会科】水はどこから ⑪h	【総合】 地域のごみ拾い活	【総合】 ビーチクリーン活動からマイクロ プラスチック問題を考えよう⑩	【総合】SDGs 糸満の海を 守るために今の自分ができる ことを考えよう⑪	【総合】SDGs 糸満の海を守るためにで きることをまとめ、発信しよう⑫		
5年	オリエンテーション		【国語科】環境問題について報告しよう ⑦h 【社会科】水産業のさかんな地域 ⑨h			【総合】 報得川の今と未来 ⑩h	【総合】 漫湖水 鳥湿地センター 見学 ③h	【総合】SDGs「糸満の海を守るためにできること」 ⑧h	【国語科】資料を 見て考えたことを		オリエンテーション 次年度へ向けて
6年		【総合】平和への願い ⑮h		【海洋】先輩に学ぶ ②h 【依頼】沖縄水産高校の生徒へ依頼			【国語科】海のいのち ⑩h	【国語科】プロフェッショナルたち ⑧h		【社会科】地球規模の課題の解決と 国際協力 ⑧h	6年間の学習のまとめ
主な行事					修学旅行		運動会			学習発表会	

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

拾ってきた貝殻やサンゴ片の特徴を利用して、自分の思いに合った作品をつくることができる。しかし、管理者に無断で持ち帰らない。

(評価場面・方法)

【評価場面】作品紹介(鑑賞)
【評価方法】発言・鑑賞カード

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

拾ってきた貝殻やサンゴ片を使うと、自分のイメージしたクリスマスリースをつくることができる。でも、無断でビーチから貝殻やサンゴ片を持ち帰ってはいけな

(振り返り)

・貝殻やサンゴ片は、砂浜に当たり前にあるものであり、それらを使って作品をつくることができる。
・採取するためには管理者の許可がいる。

3 めあて

拾ってきた貝殻やサンゴ片を使ってクリスマスリースをつくろう

4 本時の展開(2時間設定)

導入(5分)

○前時の振り返り

・北名城ビーチで拾ってきた貝殻やサンゴ片を用いた「クリスマスリース」のイメージ図を確認する。

展開(70分)

【めあて】

拾ってきた貝殻やサンゴ片を使ってクリスマスリースをつくろう

○接着用の「グルーガン」の使用法の説明

・グルーガンの先が熱くなるので触らないことを確認する。

○制作

・接着する前に、土台に貝殻やサンゴ片を予想図どおりに並べる。
・イメージと違った場合は修正する。

○完成【作品鑑賞・発表】

・友達の作品のいいところを鑑賞カードに記入する。
・工夫したところや作品のイメージについて説明する。

電源を数か所からとり、グループでグルーガンが使えるように設定する。

電子黒板で作品を提示できるようにする。

終末(15分)

○今回の単元で拾ってきた貝殻やサンゴ片は沖縄県の許可をもらって学校に持ち帰ることができたことを伝える。

【まとめ】

拾ってきた貝殻やサンゴ片を使うと、自分のイメージしたクリスマスリースをつくることができる。でも、無断でビーチから貝殻やサンゴ片を持ち帰ってはいけな

余った貝殻やサンゴ片は、あとで担当が海岸に戻すことを伝える。

【ふりかえり】

・「わ・が・と・も」で振り返る。

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

自然界にマイクロプラスチックを増やさないために、今できることを考える力

(評価場面・方法)

【場面】実物のプラスチック製品からマイクロプラスチックごみがどの程度でるのか見当する

【方法】ワークシート、発言

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

糸満の海にも、マイクロプラスチックがあることがわかった。プラスチックでできたものを捨てない、捨てさせないようにしないといけない。

(振り返り)

・砂浜には、小さいプラスチックごみがあることや、生き物が間違っってそれを食べてしまうことが近くの海で起きていることに気づく。

・今後の自分自身の行動意欲につなげることができる。

3 めあて(問題)

糸満の海には、生き物たちにとって悪いえいきょうをあたえるマイクロプラスチックごみがあるのだろうか。

4 本時の展開

導入(3分)

○前時で拾ってきたごみについて振り返る

・人の手で作られたものから出るごみが多かった。(プラスチック・缶・紙等)

○マイクロプラスチックについて振り返る

・マイクロプラスチックとは、5mm以下のプラスチック片のこと

・マイクロプラスチックを食べた海の生き物に悪いえいきょうをあたえている。

・人工物に焦点を絞る。

・調べ学習の内容を振り返るようにする。

展開(35分)

【問題】糸満の海には、生き物たちに悪いえいきょうをあたえるマイクロプラスチックがあるのだろうか。

○予想する(2分) ※予想した理由についても触れる

○動画視聴(3分)

【内容】教師が砂浜でマイクロプラスチックの量を調べている。砂浜全体を調べるには無理がある。そこで、満潮線の1㎡あたりの面積、深さ約1cmの砂に含まれているマイクロプラスチックを見つけ、その数を調べてもらうように児童に依頼する。

○調べる(20分) ※1㎡の面積、深さ約1cmの範囲の砂を児童に配分する

・虫眼鏡や顕微鏡を用いて人工物かどうかを区別する

・顕微鏡も準備しておく

・小さい網やピンセット、トレイの準備

○共有する(10分) ※発見したマイクロプラスチックを集める

・マイクロプラスチックの総数と総重量

・デジタルスケールの準備

終末(7分)

○まとめ(3分)

糸満の海にもマイクロプラスチックごみはあった。その量は予想よりも()だった

○ふりかえり

「わ・が・と・も」で振り返る

・砂浜全体ではどのくらいのマイクロプラスチックの量になるか予想する

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

自然界にマイクロプラスチックを増やさないために、今できることを考える力

(評価場面・方法)

【場面】実物のプラスチック製品からマイクロプラスチックごみがどの程度でるのか見当する

【方法】ワークシート、発言

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

糸満の海を守っていくために、プラスチックでできたものを捨てない、捨てさせないようにしないといけない。

(振り返り)

・糸満の海を守るために、今後の自分自身の行動意欲につなげることができる。

3 めあて(問題)

糸満の海を守り、育てていくために私たちにできることは何だろうか。

4 本時の展開

導入(3分)

○前時の振り返り

・糸満の海にもマイクロプラスチックごみはあった。
・前時の活動から、砂浜にあるマイクロプラスチックの量を推測するためにはどのような方法を使えばよいか考える。

・前時で集めたマイクロプラスチックごみを提示する。

展開(30分)

【問題】糸満の海を守り、育てていくために私たちにできることは何だろうか。

○予想する(2分) ※予想した理由についても触れる

○データから考える(20分)

・砂浜全体のおおよその面積からマイクロプラスチックの量を推測する。
・数、重さに着目して考える。

・電卓の準備

○動画視聴(5分)

【内容】砂浜の入り口近くに不法投棄されているごみの写真や、マイクロプラスチックを生み出すもとになるプラスチックの写真等を紹介するとともに、海に流れ出てくる用水路の出口の存在から、海を守り育てるために自分ができることについて考える。

終末(12分)

○「糸満の海を守り、育てていくために私たちにできること」は何か考える

・問題に対する自分の考えを発表する

・自分ができること、みんなでやると効果があること等、視野を広げて考えるようにする。(批判的思考で発表を聞く)

○まとめ

糸満の海を守っていくために、プラスチックでできたものを捨てない、捨てさせないようにしないといけない。

【問題】

糸満の海を守り、育てるために私たちにできることは何だろうか。

【自分の考え①】

【深く調べたいこと】

【調べた結果】※わかったことやおどろいたこと

【自分の考え②】※グループで話し合い、①と比べて変化したこと

【まとめ】

【ふりかえり】

1年生 生活科 単元名「うみとなかよしになろう」(6時間)

1 単元設定の理由

地域の海岸や水族館で海の生き物等とかかわりながら遊ぶことを通して、海への興味・関心を育て、進んで海に関わろうとする態度を育てたいと考え本単元を設定した。

2 単元目標

海に関心を持ってかかわり、海のすばらしさに気づくとともに、そこで見つけたサンゴ等を利用して、友達と一緒に工夫して遊んだり工作をしたりすることができる。

3 単元の評価基準

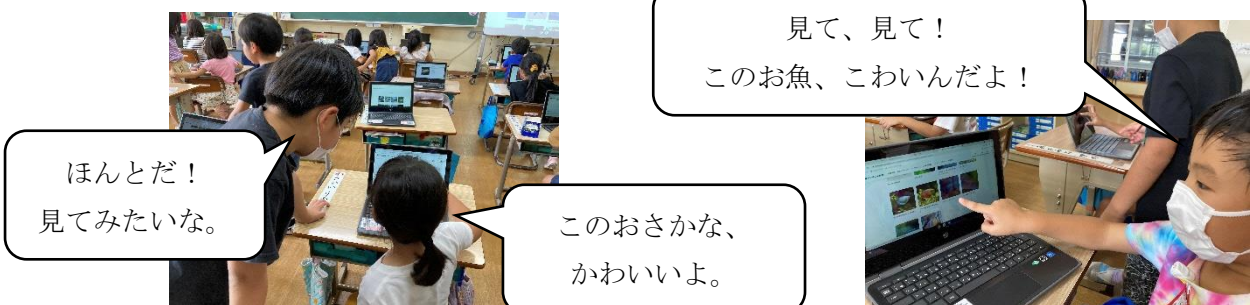
- 海の自然や生き物とかかわったり、海で見つけた自然物を使って友達と楽しく遊んだりしようとする。(生活への関心・意欲・態度)
- 海とのかかわり方や楽しみ方を考え、海で見つけた自然物を利用して遊んだり工作したりすることができる。(活動や体験についての思考・判断)
- 海や海の生き物の特徴やすばらしさ、海で見つけたものを利用してみんなで遊ぶと楽しいことに気づいている。(身近な環境や自分についての気づき)

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動
3	① うみにはどんないきものがいるのかな <ul style="list-style-type: none"> ・水族館ホームページで、海にいる生き物について調べる。 ・DMMかりゆし水族館で、海の生き物を観察したり触れ合ったりする。
1	② うみであそぼう <ul style="list-style-type: none"> ・海岸でサンゴや貝殻を拾ったり、友達と遊んだりしながら海辺の自然と触れ合う。
2	③ あつめたサンゴでつくろう <ul style="list-style-type: none"> ・拾ったサンゴや貝殻等を使用して、クリスマスリースを作る。
外部連携 / 教材等 <ul style="list-style-type: none"> ・DMMかりゆし水族館 ・豊崎海浜公園オリオンECO美らSUNビーチ 	

5 活動の様子

① うみにはどんないきものがいるのかな





きれいないろだね。
みんなちがうかたちだね。

こわかったけど
さわれるようになったよ。

② うみであそぼう



この石へんだよ。
はいいろでかるいの。

ほら、これとちがうでしょ。



やったー！きれいなさん
ごがいっぱいあるよ！



先生これね、
石じゃないよ。
なんだろう。

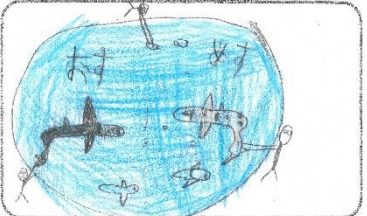
③ あつめたサンゴでつくろう

このサンゴはここに
つけるとかわいいな。



みんな、ぼくのさんご
はいろいろなかたちがあ
るんだよ。ほしいものが
あったらあげるよ～。

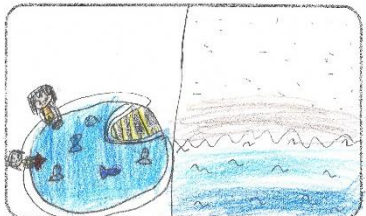
6 子どもの感想



おめとそれ方とすうさぎがしてしま
ふさるるとまにこにけるけど右
のしかつたがすまをさきと、
ひこまよつていました。みたことほ
くうしやつとしらい、わうがひまおく
はくらくておまかたです。しりい
つはまてて、いしばん、わしかた
です。



OLはかいけんがくで水ぞくかん
うみにいきました。水ぞくかんでは、
サメがいました。サメとさおるとつ
つとつにぶにいていました。ドク
ツツツは、てきみずのなかにい
となめりれたのがまねたがわかん
いいと、まもいから、たてまうみでは
かいからあつめをした。かるとい
がありました。



OLはかいけんがくで水ぞくかん
うみにいきました。水ぞくかんでは、
ヒトがさわりました。さわるときは、こ
から、たけと、さわめてさかなとほ
うごかなが、ヒトをさわてかた
たです。みずの音は、おろろと音
しました。うみでは、おんなと、お
たのしかつた。また、おんなと、い
たしです。

糸満市立糸満南小学校



海洋教育全体計画

海洋教育の目標

世界の海洋と海洋資源を保全し、持続可能(SDGs)な形で利用すること。

学校の重点目標

めあてを持って、進んで学習する子の育成
～認め・褒め・励まし、
児童の主体性を高める指導の工夫

それを踏まえ・・・

めあて：海洋教育を通して表現力を高めることができる。

関連教科を含めながら・・・

国語

理科

社会

生活

6年かけて学習することで、SDGsについて理解し、学んだことを表現することができる。

体験型 → 探究型

令和3年度海洋教育年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
1年生 関連教科				えにつきを かこう4h			はっけ んした よ6h	のりものこ とをしらべよ う いろいろ なふね6h	おもい 出して かこう 9h		くらべてよ もう子どもを まもるどうぶ たち14h	すきなところ を見つけよう 12h		
海洋教育				きせつとなかよし はる なつ12h			海洋教育オリエンテ ーション1h		きせつとなかよし あき14h		海洋教育まとめ2h 校内発表3h	きせつとなかよし ふゆ12h		
2年生 関連教科							どうぶつのひ みつをさぐる う ビーパー の大作15h							
海洋教育		まちが大きいたんけんたい15h		めざせ生きものはかせ11h		えがおのひみつたんけんたい28h			海洋教育オリエンテ ーション1h	リーフトレイル体験4h	海洋教育まとめ2h 校内発表3h			
3年生 関連教科		文章を読んで感 そうを伝え合お う 自然のかく し絵10h					話したい な、わたし の好きな 時間6h	案内の 手紙を 書こう 5h	自分の考 えをつた えよう8 h				わかる道具とくらし6h	
海洋教育	自然を みよう 1h	生き物 を調べ よう1 h	まちの様子6h	市の様子10h	店ではたらく人と仕事11h		工場ではたらく人と仕事/農家 の仕事8h		海洋教育オリエンテ ーション1h	海人工房見学4h	海洋教育まとめ2h 校内発表3h			
4年生 関連教科		ヤドカリ とインギ ンチャク 10h	みんな で新聞 を作ろ う10h		夏と生き物4h		くらしの中の和と 洋14h		ふるさとの 食を伝えよ う9h	秋と生き物 4h	地域で受け継がれてきたもの 10h	調べたこと を報告しよ う9h	冬の生き 物1h	昔のよさを未 来に伝えるま ちづくり6h
海洋教育	季節の生き物3h						海洋教育オリエンテ ーション1h		海・食・の文化や歴史を学ぶ4h					
5年生 関連教科		動物たちが 教えてくれ る海の中 のくらし7h	環境問題に ついて報告 しよう7h		台風に備 えて4h			流れる水と土地12h		食べて元気に11h		「弱いロボ ット」だから できること を話そう7 h	資料を見て 考えたこと を話そう7 h	
海洋教育	日本の国土 と世界の 国々5h	自然条件と人々のく らし10h	メダカのたんじ ょう6h	水産業のさかんな地域9h			海洋教育オリエンテ ーション1h		魚さばき・リーフトレイル体験4h			自然災害とともに 生きる6h	森林とともに生 きる6h	海洋教育まとめ2h 校内発表3h
6年生 関連教科			国づくりへ の歩み7h	大陸に学んだ 国づくり7h			物語を読んで考え たことを伝え合お う 海の命10h							
海洋教育		人や他の動物の体14h					生き物と食べ 物・空気・水8 h		海洋教育オリエンテ ーション1h	加工食品作り・昔の道具体験・4h		海洋教育まとめ2h 校内発表3h		

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

- ・糸満の昔からの漁法や漁具、漁業の歴史について知り、関心を持つ。
- ・サバニを漕ぐ体験を通して、糸満の伝統文化への興味関心を育む。

(評価場面・方法)

ノート・発表

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

- ・海人工房見学やハーリー体験を通して分かったこと、調べてみたいことを発表する。

(振り返り)

- ・海人工房見学やハーリー体験を通して分かったこと、調べてみたいことをまとめる。

3 めあて

- ・糸満の海の歴史や道具について知ろう。
- ・ハーリー体験を通して糸満の漁業について関心を持とう。

4 本時の展開

導入(10分)

- ・海人工房見学やハーリー体験で約束を確認する。
- ・午前中は海人工房での糸満の海の歴史について知る。

展開(190分)

- 1 資料館見学と講話
- 2 陸上でのサバニ体験(エークの持ち方等)
- 3 古民家見学
- 4 美々ビーチでのサバニ体験
- 5 水産高校生とロープワーク

午前中
海人工房
講話(上原さん)午後
サバニ体験
講師 ハーレー行事委員会
連携 沖縄水産高等学校

終末(10分)

- ・見学したこと、体験したことの感想を発表する。
- ・糸満の海についてこれから調べたいことをまとめる。

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

糸満の海の生き物の環境についての興味関心を持ち、環境を守るために何ができるのかを考える力

(評価場面・方法)

・各活動場面における発表、発言、取り組む様子
・総合ノートの振り返りのコメント

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

糸満の海にも、マイクロプラスチックごみがある可能性が高いと言える。ないとは言い切れない。

(振り返り)

糸満の大切な海と生き物の環境をこれ以上悪くしないために、自分たちができることは何かを考え、できることから取り組む(冬休みにチャレンジ！)。

3 めあて

糸満の海にも、マイクロプラスチックごみがあるのだろうか。

4 本時の展開

導入(8分)

1. マイクロプラスチックごみについての確認
2. 予想する
【糸満の海に、マイクロプラスチックごみはある？ない？】
3. 本時のめあての確認
【糸満の海にもマイクロプラスチックごみがあるのか調べよう。】

※事前学習

- ・南浜公園内の海岸のごみ拾い
- ・GODACとのオンライン授業
- ・南浜公園内の海岸の砂の採集(満潮線と汀線の砂)

展開(30分)

3. 満潮線グループと、汀線グループに分かれて、砂の調査をする。
 - ・虫眼鏡やルーペを用いたり、さわったりしながら、マイクロプラスチックかどうかを区別する。
4. 全体交流をする
 - ・発見したマイクロプラスチックを入れた箱を見せ合い、個数を確認する。

・準備物

- ピンセット、網、バケツ、
- 区別したマイクロプラスチックを入れる箱
- ・調査時間を確保し、じっくり砂を観察させる。

- ・満潮線グループと汀線グループのマイクロプラスチックを比べる。(色や形、個数など)

終末(7分)

5. まとめる
 - ・糸満の海にも、マイクロプラスチックごみはある可能性が高いと言える。
6. 振り返りをする

- ・目に見えないマイクロプラスチックごみについても確認し、食塩水を使ったマイクロプラスチックの分離実験も行う。

南浜公園へ行ってみよう

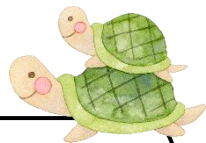


4年 組 番 名前()

1. 南浜公園の海岸に行ったことはありますか？ はい・いいえ

2. 南浜公園の海岸には、どんな生き物がいましたか？

(南浜公園の海岸に行ったことがない人は、糸満の海を思い出してね。)



3. その他に、海岸について気づいたことはありますか？



4. 海岸について知りたいこと、調べてみたいことを書いてください。



海を守ろう！レッツチャレンジ！

4年 組 ()

☆4年生は、海洋教育で「海の環境」について学習を進めています。

GODACさんのオンライン授業や南浜公園のごみ拾い、マイクロプラスチック調査の学習を通して、海の生き物にとって、今の海の環境は決して良い環境とは言えないことが分かりました。

そこで、これ以上海の環境を悪くしないために自分ができることを考え、この冬休みにチャレンジしましょう。

3学期の海洋教育の授業で、チャレンジしたことを発表します。頑張ってみましょう！

自分で考えたチャレンジ！

やってみたチャレンジ！（具体的に書きましょう。日にち、場所、回数など）

チャレンジしてみたの振り返り（思ったこと、考えたこと、これからどうしたいか…など）

☆チャレンジお疲れ様でした。やってみて思ったことを、3学期にみんなで伝え合いましょうね！

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

- ・沖縄の海の現状を知る(知・技)
- ・沖縄の海の生き物を実際に観たり、触れたりし身の回りの環境を知ることができる(主)

(評価場面・方法)

- ・発言
- ・新聞

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

- ・沖縄の海は透明度がある。
- ・沖縄の海には多種多様な生き物が住んでいる

(振り返り)

- ・それを踏まえて私たちにできることを考えてみよう。
- ・今と昔で海の様子は変わっているかな
- ・食の視点から
- ・海の食材を使った料理にはどんなものがあるかな?

3 めあて

沖縄の海の生き物・環境について調べてみよう

4 本時の展開

導入(45分)

- ・DMM水族館からから講師をお呼びし、沖縄の海的环境について体育館で学習する

※事前にDMM水族館の職員と打ち合わせを行う。実踏を行う

展開(240分)

- DMM水族館見学を行う。
 - ・各グループに分かれ、見学をする。
 - ・海に生息している生き物を実際に観たり、触れたりする。
- 那覇港からガラスボードに乗り、水中の魚を見学する
 - ・水中の魚・サンゴの種類など観察する。
 - ・魚に餌をあげ、どのような動きをするか観る。

※水族館の利用の仕方を事前に指導する。事前に伝える

※バラバラにならないようにリーダーが声かけする。

※乗船する前に広場でガラスボードのマナーを確認する

※体調が悪くなる児童も予想し、席の確保する。

終末(180分)

- ・体験したことをグループに分かれ、新聞で発表する。

※新聞紙の準備
※まとめ方を確認する

糸満市立高嶺小学校



令和3年度 各学年 海人科（海洋教育）の年間計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
主な学校行事	・家庭訪問	・春の遠足 ・1年生迎える会	・運動会 ・平和集会			・市陸上 ・校内童話大会	・修学旅行 ・地区陸上 ・高嶺フェスタ ・社会見学 ・宿泊学習	・学習発表会 ・感謝集会	・赤い羽根募金贈呈	・糸満教育の日 ・校内書き初め会	・児童会選挙 ・南山健康祭 ・新入生説明会	・6年生送る会 ・卒業式
1年生	生活科が始まるよ(4h)	わくわくどきどき小学校(16h)	季節となかよし春・夏(10h)			きれいにさいてね私の花(10h)	仲良くなろうね 小さな友達(10h)	季節となかよし、秋(12h)	家族にここぞ大作戦		もうすぐ2年生(14h)	
2年生	わくわく2年生(3h)	めざせ野菜作り名人(5h)	町が大好き探検隊(14h) 笑顔の秘密探検隊(10h)			めざせ生き物はかせ(10h)	めざせ野菜作り名人(5h)			明日へつなぐ自分探検(5h)	作ってためして	
3年生(70h) ・地域のよさを知ろう(55h) ・海洋教育(15h)			地域のよさを知ろう(15h)				地域のよさを知ろう(25h)				地域のよさを知ろう(15h)	
4年生(70h) ・福祉教育(35h) ・地域と稲作(15h) ・海洋教育(16h) ・キャリア教育(4h)			福祉について(講話)(1h) 個人テーマ決め(1h) 福祉の個人テーマを調べる・まとめ(8h)				福祉体験(9h)、調べ学習、発表(14h)		稲作について調べる(2h)		土づくり(4h) もみまき(2h)、田んぼ作り(2h)	
5年生(70h) ・沖縄の農業と稲作(40h) ・地域の環境問題(15h) ・海洋教育(15h)			稲の世話稲の収穫・脱穀・精米(15h)				真栄里大綱引き見学(中止) まとめ・発表(20h)		米を食す(2h) 地域の環境に目を向けよう			地域の環境に目を向けよう(15h)
6年生(70h) ・見つめよう平和(30h) ・見つめよう地球環境(30h) ・見つめよう自分(10h)	総合学習オリエンテーション(2h) 平和事前学習(2h)	ひめゆり平和祈念資料館見学(4h) アブチラガマ見学(4h)	調べ学習(8h) 中間発表会(4h)	ウニの放流体験(4h)		海や川などの環境に関する講話(4h) 海の清掃活動(4h)						見つめよう自分(5h)
				最終発表会～学習まとめ(6h)			海に関する調べ学習(13h) 学習発表練習(6h)				校内発表会(4h)	

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

リーフトレイル体験で、生き物を調べてまとめたことをわかりやすく発表することができる。

(評価場面・方法)

・発表(調べたこと・クイズなど)

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

自分たちが調べた生き物のことを1年生にわかりやすく楽しく発表することができたか。

(振り返り)

自分が調べたことを伝えられることができたか。

3 めあて

リーフ体験で、自分たちが調べた生き物のことをわかりやすく発表しよう。

4 本時の展開

導入(1時間)

○リーフトレイルで見つけた海の生き物の中で、もっと調べてみたい生き物について話し合う。

○調べたい生き物を決め、グループを作る。

・リーフトレイル体験の写真を活用する。

展開(4時間)

○調べることを決めて、資料を活用しまとめる。

○まとめる方法を決めて、各グループで取り組む。(新聞・紙芝居・ペープサート)

○まとめたことの中からクイズを作成する。(○×クイズ・3択クイズ)

○仕上げたら発表の練習を行う。

・グループの人数もまとめやすく3~5人程度にする。

・まとめ方やクイズの出し方の話し合いでつまづいたグループには、昨年度の資料を見せながらヒントを与える。

・発表の練習の時に並び方や機敏な行動ができるように工夫させる。

終末(2時間)

○1年生へわかりやすく発表を行う。(調べたことやクイズ)

発表の手順: 調べた生き物の名前、調べたこと、感想、クイズ、質問タイム

・1年生が聞き取りやすい声と速さで発表する。

・クイズを楽しみながら出させる。

生きもののひみつをしらべよう！

2年 組 名前（ ）

① しらべる生きもの

② しらべること

③ インターネットや本でしらべて、わかったこと

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

川と海の豊かさを守るためにできることを考える。

(評価場面・方法)

振り返り場面でのワークシートの記述

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

川の環境汚染は、自分たちの暮らしと関係している。

(振り返り)

報得川の環境汚染は、家庭から出る生活排水や畑に散布される農薬、私たちが捨てたごみの原因だと考えられる。嘉手志川は、外来種により生態系がおびやかされている。

3 めあて

川と海の豊かさを守るためにできることを考えよう。

4 本時の展開

導入(5分)

1. 本時のめあてを確認する。
 - ・これまでの学習の経緯を想起させ、今日の学習の目的を話す。
 - ・今日の活動の流れを説明する。

・ゲストティーチャー
「おきなわ環境クラブ」から講師
2名

展開(75分)

2. 嘉手志川にてフィールドワークを行う。
 - ・水辺の生き物観察をする。
カワニナ…きれいな水と少し汚れた水でも生きられる生き物。
サガリバナ…夏の夜に花を咲かせる。
種子は水に浮き、流されて繁殖する。
うなぎ、てながえび…昔からいた生き物。
テラピア、グッピー…外来種
3. 「報得川の水質」について講話を聞く。
 - ・報得川の流域
 - ・汚れの原因…「農薬」「家庭排水」「ごみ」
4. 嘉手志川と報得川、水道水の水質調査を行いサンプルを比較する。
 - ・CODパケットテスト
 - ・大腸菌群数
5. 水質調査の結果から分かったことをまとめる。

・5～6名グループになり、水質
調査を行う。
・パケットテストの取り扱いに注意
を促す。

終末(10分)

6. 自分たちにできることを考える。

・環境問題に関心を持ち、自分
の身の回りで起こっている問題
を知ることが大事であることを
知らせる。

1 嘉手志川の生き物を観察しましょう。

()

2 「嘉手志川と報得川の水質」の話を聞いて大事なことをまとめましょう。

()

3 「水質検査」の話を聞いて分かったことをまとめましょう。

()

4 水質検査の結果を記録しましょう。

あなたの グループ番号	COD パックテスト (mg/l)			大腸菌群数 個/ml
	嘉手志川	報得川	学校の水道水	

5. 嘉手志川の水がきれいになるために、自分たちができることを考えて書きましょう。

()

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

糸満市の「未来の海の姿」について調べたことをまとめ、プレゼンテーションをすることができる。

(評価場面・方法)

- ・ワークシート(発表の構成メモ)
- ・ノート、スライド(発表原稿・スライドの作り方)
- ・プレゼンテーションの様子(話し方・聞き方)

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

プレゼンテーションを通して、聞き手に向けて、自分たちが「糸満市の未来の海」を守るために出来ることを効果的に伝えることができたか。

(振り返り)

プレゼンテーションをして、聞き手を納得させたり共感させたりできるよう話す工夫ができたか。

3 めあて

「糸満市の未来の海」について思い描いたことを、プレゼンテーションで伝えることができる。

4 本時の展開

ふれる(5時間)

○外部講師を招いて、SDG'sについて話を聞いたり、海ゴミや食品ロス問題などの話を聞いたりすることを通して、環境問題を身近なものとしてとらえ、自分事として問題意識をもつ。
○「思い描く糸満市の未来の姿」についてグループで話し合い、テーマを決める。

・国語科「世界へ目を向けて意見文を書こう」の単元でSDG'sをテーマに意見文を書いた。
・講話の内容や意見文を書いた事を想起させる。

調べる・まとめる(10時間)

○調べることを決めて、資料を活用しながらプレゼンテーションのスライドを作る。
○スライドの内容をもとに、発表する原稿を書く。(グループで役割分担し、説明するスライド番号を決めておく)
○スライドと合わせて、発表原稿を読みながら発表の通し練習をする。
○原稿を見ないで、スライドと合わせながら話す練習を重ね、プレゼンテーションの準備を進める。

・グループの人数もまとめやすく3~5人程度にする。
・まとめ方やクイズの出し方の話し合いでつまづいたグループには、昨年度の資料を見せながらヒントを与える。
・発表の練習の時に並び方や機敏な行動ができるように工夫させる。

広げる・発信する(2時間)

○5年生へ向けて、プレゼンテーション発表会を行う。(今年度は動画を撮影した)
○単元全体の振り返りをする。

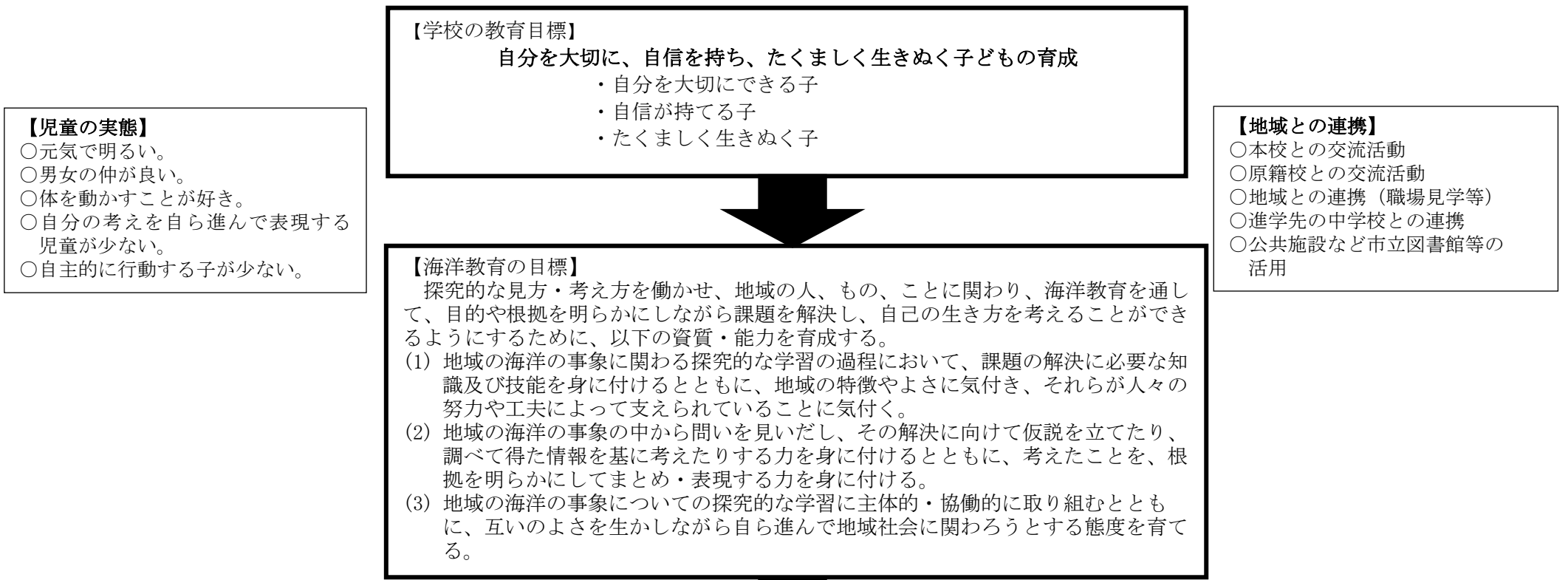
・5年生へ向けて、聞き取りやすい声と速さで話す。
・より説得力のあったグループを選び、良かった点を共有する。



糸満市立米須小学校

大度分校





【本校の総合的な学習の時間の目標】		地域の自然や文化、環境についての、探究的な活動を通し、多面的に追究する方法を身に付け、自ら課題を見つけ主体的に学び、仲間と協力して問題解決するとともに、よりよい生活を作り出そうとする子の育成。			
【内容】		探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力			
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力・人間性等	
3年	情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。	課題の設定	自分の関心から地域の海洋の事象についての課題を設定し、解決方法を考えて追究している。	主体性	課題の解決に向けて、探究活動に取り組もうとしている。
4年		情報の収集	教師の支援により手段を選択し、情報を収集している。	協働性	課題解決に向けて、身近な人と協働して探究活動に取り組んでいる。
		整理・分析	問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けている。	自己理解	自分のよさや自分のできることに気付き、課題解決に向けて取り組んでいる。
		まとめ表現	相手に応じてわかりやすくまとめ、表現している。	他者理解	自分と異なる意見や考えがあることを知り、探究活動に取り組もうとしている。
		振り返り	学習したことをふり返り、生活に生かそうとしている。	社会参画	自分と地域とのつながりに気付き、地域の活動に参加しようとしている。
5年	情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。	課題の設定	地域の想いや現状をふまえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しを持って追究している。	主体性	課題の解決に向けて、探究活動に進んで取り組もうとしている。
6年		情報の収集	自分なりの手段を選択し、情報を収集している。	協働性	課題解決に向けて、他者と協働して探究活動に取り組んでいる。
		整理・分析	問題状況における事実や関係を、整理した情報を関連づけて理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けている。	自己理解	自分らしさを発揮して探究活動に向き合い、課題解決に向けて取り組んでいる。
		まとめ表現	相手や目的、意図に応じてわかりやすくまとめ、表現している。	他者理解	異なる意見や他者の考えを受け入れながら、探究活動に取り組もうとしている。
		振り返り	学習の仕方をふり返り、学習や生活に生かそうとしている。	社会貢献・将来展望	自分と地域の関わりを考えながら、進んで地域の活動に参加しようとしている。
学年	3年（30時間）	4年（30時間）	5年（30時間）	6年（30時間）	
学期	2学期				
探求課題	守ろう 沖縄の海				
目標	身近にある海を知り、海に親しみ、海を守るためにできることや、地域にある海を利用した伝統や文化、産業に目を向け、調べ、自分にできることを考える。				

<p>【学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実態、児童の実態を踏まえ、探究課題を設定する。 ・地域の人、もの、ことを生かした学習活動を行う。 ・学習成果を表現する場を設定する。 	<p>【指導方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の課題意識を連続、発展させる支援と工夫を行う。 ・個に応じた指導の工夫を行う。 ・体験活動を重視する。 ・各教科等との関連を重視した指導を行う。 ・言語により整理分析したり、まとめ表現したりする学習を重視する。 ・協働的な学習を充実させるため、思考ツールを活用する。 	<p>【指導体制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校指導体制を整え情報を共有する。 ・校外講師と校内の連絡調整および指導体制を確立する。 ・地域の教育資源をデータ化するとともに、日常的な関わりを行う。 ・メディアセンターとして学校図書館の整備・充実を図り、市立図書館等も活用する。 	<p>【学習評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。 ・個人内評価を重視する。 ・指導と評価の一体化を図る。 ・授業分析による学習指導の評価を重視する。 ・期末、学年末には指導計画を評価・改善し、次年度の計画に生かす。
---	--	---	--

【各教科等との関連】

国語	社会	算数	理科	生活科	音楽
<ul style="list-style-type: none"> ・海に関する教材の学習 ・説明文や資料を読む力 ・調べたことを文章にまとめる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然についての学習 ・地域の海洋にまつわる産業 ・海洋にまつわる地理・歴史 ・環境学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・数の概念 ・数量関係の学習 ・データの活用に関する学習（表・グラフなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋の生物に関わる学習 ・地球環境についての学習 ・海の酸性化について。（酸性、アルカリ性の学習） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生き物についての学習 ・地域の自然についての学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・海洋を表現する表現活動 ・海洋に関する音楽創作 ・海洋を表現した音楽の鑑賞
家庭	図画工作	体育	外国語活動・外国語	特別の教科 道徳	特別活動
<ul style="list-style-type: none"> ・海の食材についての学習 ・食品の廃棄に関する学習 ・5Rについての学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・海をテーマにした創作 ・環境問題をテーマにしたポスターづくり ・漂着ゴミを使った創作活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳の学習 ・水難事故防止の安全教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語での交流活動 ・国際的な環境問題についての学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・善悪の判断 ・規則の尊重 ・生命の尊さ ・自然愛護 ・その他環境保護の視点と関わる情動についての学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動 ・津波避難訓練

令和3年度 米須小学校大度分校海洋教育

[海人(うみんちゅ)科]年間指導計画

1 ねらい

- (1)系満市の教育課程特例校として開設される「海人(うみんちゅ)科」として、海洋に関する学習を展開し、海洋に関する興味関心を高める。
- (2)海洋に関する諸課題について、多面的・多角的に捉えて、調査・探究することを通して、課題を解決していこうとする態度を育てる。
- (3)各教科との横断的な関係を図り、児童の学習意欲を高め、深い学びにつなげる。

2 方針

- (1)第3学年～第6学年まで、2学期の総合的な学習の時間から28時間設定する。
- (2)各学年の総合的な学習の時間のテーマとの関連を図って実施する。
- (3)体験的な活動から「探究的な活動」になるように工夫する。
- (4)各教科と横断的に関連させた指導を行う。
- (5)全職員の共通理解を図り、連携して取り組む。

3 海洋教育年指導計画

第3年～第6年

全30時間

学年	実施予定月	月合計時数	学習内容		時数	体験活動	時数
第3～6学年	8月	1	オリエンテーション	学習計画を立てる。	1		
	9月	6	【海を知ろう・海に親しもう】 海洋について知り、興味のある課題を設定する。	【課題の設定】 ・海の生き物 ・漁業 ・水産加工物 ・海と食文化 海洋に関する興味のある課題を見つける。	2		
						大度海岸リーフトレイル①②	4
	10月	9		【情報の収集】 設定した課題について、概要を調べる。	5	大度海岸リーフトレイル③	4
	11月	9		【整理・分析】 調べたことを整理分析し、問題の概要，原因について知識を深める。	5	海に関する施設見学	4
	12月	5		【まとめ・表現】 調べまとめた内容を発表する。	5		

単元名

大度海岸 海のいきもの大研究

関連する教科

総合的な学習の時間

1 単元のねらい

(身に付けさせたい力)

海の生き物に親しみ調べようとする力
 海のよさを知り、海の課題を解決しようとする力
 考えたことを表現する力

(評価場面・方法)

・ポートフォリオを活用した評価
 ・課題解決の場面
 (何をどう考えたのかがわかる記述・発言)

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

大度海岸の磯(イノー)には、きれいな海があり、小さな生き物たちが岩場にかくれてながら、サンゴと一緒に楽しく生活している。そんな海を大事にしていきたい。

(振り返り)

大度海岸の磯の観察(体験活動)を通して、海の豊かさに気づき、海とその生き物を守ろうとする思いを持たせることができた。

3 めあて

大度海岸のいいところを伝えよう(大度海岸の海の魅力を見つける)

4 単元計画(全30時間)

【オリエンテーション】(2時間)

- ◆学習の進め方について確認する(どんな学習するの?)
 - ・学習の全体を見通す。
 - ・取り組みたいことがにている人がいるか確認する。

【海を知ろう・海に親しもう】(13時間)

海洋について知り、海洋が抱える問題について調べる

- ◆共通体験(6時間)
 - ・大度海岸リーフトレイル(5月)
 - ・大度海岸リーフトレイル(9月)
- ◆小単元1「どんな生き物があるのかな」(7時間)
 - ・題材探し
 - ・イノー生き物マップを作成する
 - ・学習課題を立てる

小単元1

- ・どんなことを調べるか課題や小柱を立てる。
- ・いつ、どんな方法で調べるか、計画を立てる。
- ・調べたい理由を言葉にまとめる

【海を守る・海を利用する】(14時間)

海洋の問題について調べてきたことをもとに、自分なりの解決策を考える。

- ◆小単元2「生き物の特徴を調べよう」(5時間)
 - ・図鑑で調べたり専門家に質問したりして知識を増やす。
 - ・調べたい生き物の模型をつくり、特徴を捉え不思議を発見する。
動き方・大きさ・色・身の守り方・えさのとりの方・暮らし方
- ◆小単元3「サンゴについて調べよう」(5時間)
- ◆小単元4「サンゴと生き物の暮らし方について考えよう」(4時間)

小単元3・4 調べ活動

- ・専門家へのインタビューや図鑑や現物を見ながら、動物の体づくりを通して、遊びながら特徴を捉えていく。
- ・作品を動かしたり、遊んだりする活動を通して暮らし方について考えていく。

【最終発表】(1時間)

まとめたことを発表する

- ◆小単元5「調べたことを発表しよう」(1時間)
 - ・パワーポイントをもとに、調べたことの報告・クイズ・ペープサートにして発表する。

小単元5 発表

- ・自分たちが見つけた不思議をみんなに楽しく伝える。

学習計画を立てよう（ウェビング）

ウェビング図



学習課題を立てよう（小柱を立てる）

「伝えたいけどわからないこと」を疑問の言葉にして、小柱を立てましょう。
「小柱」とは課題を解決するために実際に調べる一つ一つの問題のことを言います。



ウェブで調べたいことが見えてきたと思います。
それをぎもんのことばにかえて問題を作ります。

たとえば、・・・「どうして〇〇は△△なのかな？」

「どうしたら〇〇は△△になるのかな？」

「〇〇は、どうなっているのかな？」

このようにして 小柱を立てます。

1 小柱を立てましょう。

調べたいこと

調べたいこと



小柱を立てるときのポイント

- ◆グループの課題として調べる場合
みんなでどんな小柱を立てるか、話し合おう。
- ◆ひとりで課題を調べる場合
一人で小柱を立てるとき、困ったら先生にたずねよう。
何を調べるか、しっかりかためよう。

■ 調べよう

月		日		ようび		時		天気		天気		℃	
ようす													
	大きさ												
	重さ												
	食べ物		なにを										
			どれくらい										
くふう													

月		日		ようび		時		天気		天気		℃	
ようす													
	大きさ												
	重さ												
	食べ物		なにを										
			どれくらい										
くふう													

中間発表会・発表会の準備をしよう（中間発表の準備）

1 中間発表会で発表することをまとめよう。

自己しょうかい

何をどのように
発表したいか、
大事なことを
じっくり
考えて
まとめよう。



発表内容	
調べたこと (箇条書きで簡潔に)	
学習のようす 工夫したこと 苦労したことなど	
わかったこと (箇条書きで簡潔に)	
これから 取りかかること	
その他 (感想・振り返り・ さらに調べたくなった ことなど)	

自己評価カード（学習課題を立てよう）

—— 学習をふりかえって ——

月 日 () だい () 時間目

いいちょうし◎ ちょっとピンチ□ たすけて△

身に付けた力	とく力	・どんな課題を立てるか考え、話合いで提案することができたか。	
		・ウェビングで新しいことに気付いたり、もっと調べたくなるようなことを見つけたりすることができましたか。	
		・どんな小柱を立てるか考え、話合いで提案することができましたか。	
		・課題と小柱を決め、これからの学習に見通しを持つことができましたか。	
	学ぶ力	・ワークシートの資料やヒントカードをつかって学習することができましたか。	
		・考えたことや知っていることをワークシートにまとめることができましたか。	
		・考えたことを発表することができましたか。	
		・友だちと協力し、話し合ったり、学び合ったりすることができましたか。	
	学びのくふう	・ねばり強く、進んで学習に取り組めましたか。	
		・友だちのよいところを見つけようという気持ちで学習に取り組めましたか。	

がんばったこと

次の時間にがんばること

感想・その他

先生から


児童の学習の様子①【単元名】大度海岸「海のいきもの大研究」（全28時間）

小単元	学習内容	発表内容
<p>1 どんな生き物がいるのかな ◆海に親しむ ◆活動の目的 ◆活動のめあて ◆</p>	<p>■学習計画を立てる</p> 	<p>■大研究の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたかった理由は何？ ・どれについて調べたの？ ・どのように調べたの？ <p>目的や方法について児童の様子に合わせながら取り組んだことを発表した。</p>
<p>2 生き物の特徴を調べよう ◆海を知る</p>	<p>■体験活動 リーフトレイル1回目</p> 	<p>■体験活動で見つけた生き物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海辺の岩陰や砂の中には隠れている生き物がいっぱいいます。 
<p>3 サンゴについて調べよう ◆海を知る</p>	<p>■体験活動 リーフトレイル2回目 ◆褐虫藻が色をつけている/動物等</p> 	<p>■海の形状・環境</p> <p>あたたかい海にはサンゴという動物がいます。</p> 
<p>4 サンゴと生き物の暮らしについて考えよう ◆海を守る</p>	<p>■ペープサートで考える ◆どんな生活をしているのかな？</p> 	<p>■サンゴと小さな魚たちの暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで仲良く暮らしています。 


◆調べ活動で活用したワークシート

6 調べよう (ワークシート 20-②)

9月 日 ようび 9時 天気 はたき曇り 30℃


	大きさ	直径約45cm
	重さ	
	なにを 食べたか	とろろいこのフシ とろろのフシ
	なにを 食べたか	波のフシとフシ カゴ
	名前	イトリン (エダサンゴ)

月 日 ようび 時 天気 きん じ

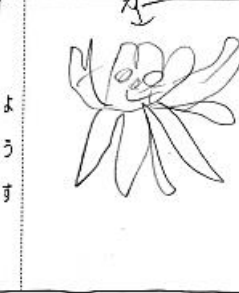
	大きさ	直径30cmほど
	重さ	
	なにを 食べたか	とろろのフシ
	なにを 食べたか	水面からふちふち かきよくなる
	名前	リュウウのサンゴ

6 調べよう (ワークシート 20-②)

9月 日 ようび 9時 天気 はたき曇り 30℃

	大きさ	直径約10cm~2m
	重さ	
	なにを 食べたか	波かつた洗花 かきよくなる
	なにを 食べたか	テーブルが2段 になるよ
	名前	クシハダイトリン

月 日 ようび 時 天気 きん じ

	大きさ	4.5cm
	重さ	
	なにを 食べたか	とろろのフシ
	なにを 食べたか	水面からふちふち かきよくなる
	名前	リュウウのサンゴ

【参考文献】

屋比久荘実 2014「沖縄のサンゴ礁を楽しむ 磯の生き物 改訂」 アクアユール企画

◆発表会で活用したワークシートの一例

6 調べよう (ワークシート 20-⑥)

どこまでもつづく海①

海はとておもしろい
どこまでもつづく海
左に海はものかたして
はたき曇り
のいそぎをみまよ

大度海岸
海のいきもの大研究

どこまでもつづくうみ

うみであそぶ

うみはとておもしろい
どこまでもつづく海
左に海はものかたして
はたき曇り
のいそぎをみまよ

6 調べよう (ワークシート 20-⑥)

ちかくのうみをみまよ③

うみのなかにははたき
んのさかき。おのり
やすのうみをかきよ
う

あたたかいうみをみまよ④

あたたかいうみにははたき
のさかき。おのり
やすのうみをかきよ
う

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

海洋を中心に興味のある事象について、疑問や課題を見つけ、その解決策などについての知識を身につける。
自身の設定した課題解決のために行動しようという態度を身につける。

(評価場面・方法)

ノート・発表

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

それぞれが絵本やクイズ、ポスター、スライドなどの資料を作成し、調べわかったこと、考えたことを発表する。

(振り返り)

調べ学習や発表を通して、感じたことを発表する。

3 めあて

海洋について気になったこと・疑問に思ったことを調べ、ニュースにして発表しよう

4 単元の展開(全18時間)

導入(1時間)

1 オリエンテーション

海洋の様々な事象、海洋と人との関わりについてのスライドを見て、海洋について関心を持つ。

・海洋の特性、これまでの人との関わりなど広く取り扱い、児童に興味関心のある課題を探させる。

展開(16時間)

2 【テーマを決める】(2時間)

自分が調べる海洋に関する課題テーマを決める。

・少人数での学習であるため、児童一人一人が関心を持つテーマに合わせて、調べ学習を調べる。

3 【調べる計画を立てる。】(5時間)

調べること・調べる方法・まとめ方を考える。

・調べるのが苦手な児童には、支援に入りつつ、ウェビングなどの手法も取り入れながら、学習を進める。

4 【課題について調べ、考える】(5時間)

海洋の問題について、調べてきたことを基に、自分なりの解決策を考える。

5 【まとめる】(4時間)

児童それぞれが、スライド・ポスター・クイズなど発表形式を選択しつつ、学校職員や児童心理治療施設職員に対し、ニュースとして発表する。

終末(1時間)

6 【最終発表】(1時間)

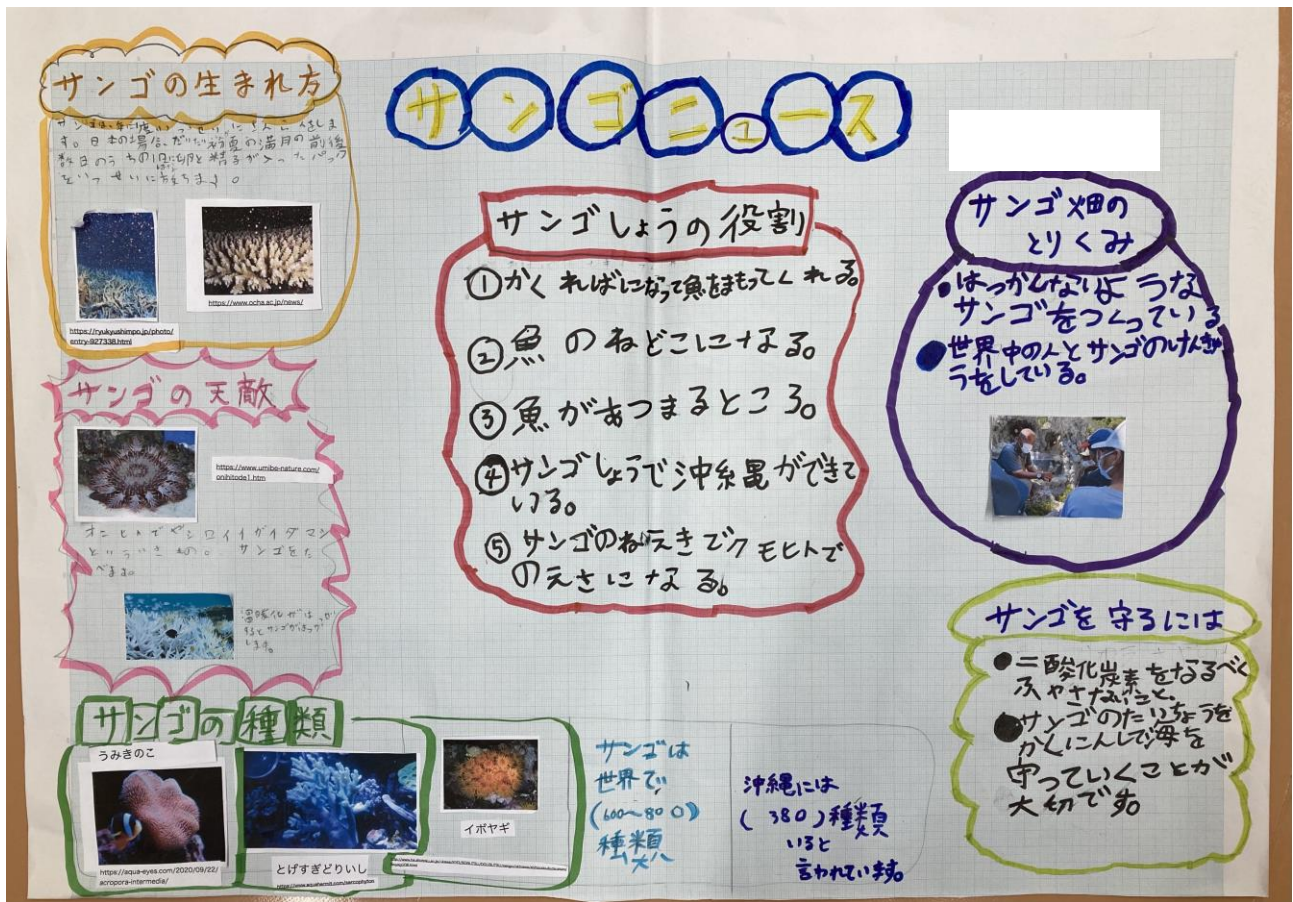
海洋ニュースとして、自分の調べたことを発表する。

・司会進行は教師で行い、発表のサポートをする。

・それぞれがまとめやすい形お取らせることで、発表しやすい環境を整える。

児童の発表例 2

タイトル：サンゴニュース 発表形式：ポスター

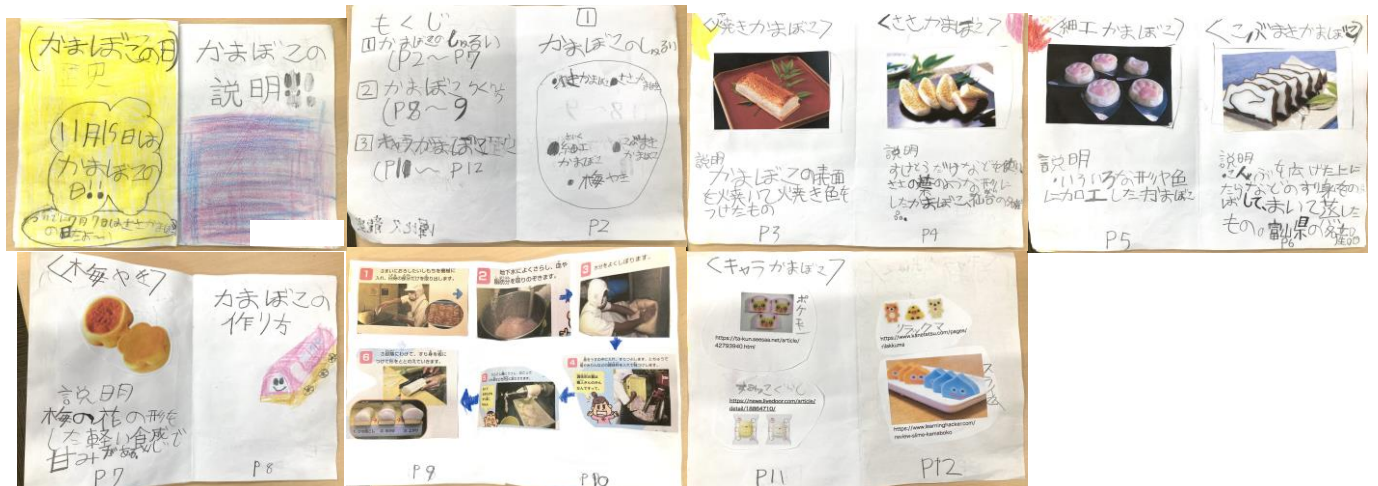


参考 書籍サンゴの森

美ら海振興会 HP <http://www.churamishinkokai.com/knowledge/index.html>

児童の発表例 3

タイトル：かまぼこについて 発表形式：絵本/スライド



参考：
日本かまぼこ協会 HP
西南門小かまぼこ屋 HP
守ろう育てよう日本の水産業

児童発表例 4

タイトル：宝貝のとくちょう 発表形式：スライド

<p>宝貝のとくちょう</p>	 <p>ハナピラダガラ貝</p>	
	 <p>天然石</p>	  <p>宝貝の生きている姿 地球新聞style https://ryukyushimpou.jp/kyu/article/entry-62273.html</p>
	<p>ハナピラダガラ貝</p> <p>調べてみて・・・</p> 	<p>参考： サンゴ礁の磯-大度海岸-自然観察ハンドブック http://kiss2sea.web.fc2.com/diving/class/ga102-011.htm https://gendai.ismedia.jp/articles/-/58675</p>

単元名

大度海岸の生き物を調べよう

関連する教科

総合的な学習の時間

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

地域の海に関心を持ち、海の生き物のふしぎさ面白さを味わう。

(評価場面・方法)

写真の貼付によるまとめ 発表

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

大度海岸の生き物について写真を白紙に貼り付けて、メモを書き込みまとめる。

(振り返り)

調べ学習や発表を通して、感じたことを発表する。

3 めあて

大度海岸の生き物について調べてまとめよう。

4 単元の展開(全8時間)

導入

1 講師の紹介・めあての確認

- ・大度海岸の生き物について知り、興味関心のある生き物を見つけるというめあてを確認。
- ・エコツーリズムデザイン研究所の大学生講師を紹介し、円滑に活動が行えるようにする。

・磯の生き物には危険なものもいるので、安全のやくそくについてしっかり話す。

展開(8時間)

2 大度海岸リーフトレイル(2時間×3回)

- ①オリエンテーション リーフトレイルの注意点を確認する。
- ②リーフトレイルにて磯の生き物を観察する。

・3つのグループに分かれ、少人数で、しっかり観察ができるようにする。

3 見つけた生き物についてまとめよう(1時間)

- ①写真を見ながらリーフトレイルのことを想起
- ②ワークシートに、リーフトレイルで学んだことをまとめる。

・写真を見ながら、学んだことをまず黒板でまとめることでワークシート作成のヒントとする。

4 沖縄のサンゴ礁について知ろう(1時間)

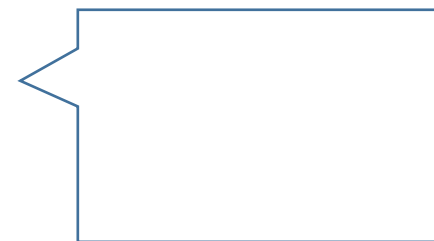
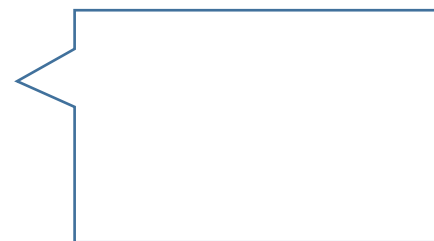
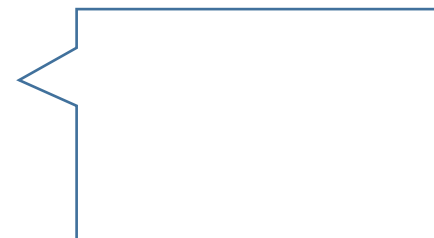
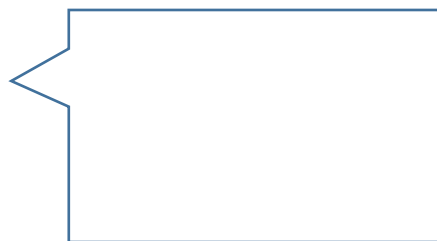
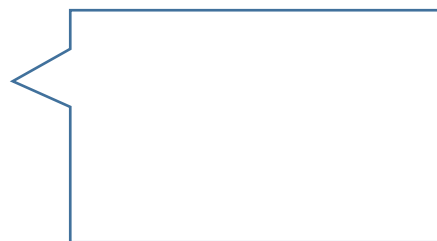
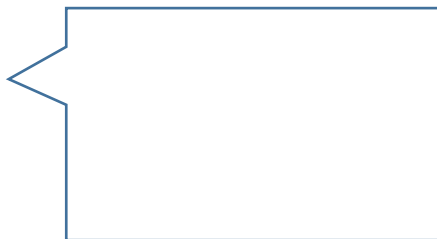
- ①オンラインで大学生による講話
- ②海岸で見つけたことを改めて振り返り、質疑応答

・オンラインでの講義、質疑応答がスムーズに行えるよう聞く姿勢の指導を行う。

終末

5 学んだことを振り返り、海洋ニュースの発表に生かす。

大度海岸でみつけたよ！



児童の学習の様子③大度海岸の生き物を調べよう

写真をもとに、ウニが自分で岩に穴を空けていくという初めて知ったこと。おいしいらしいという関心をまとめられている。

大度海岸で見つけたよ！

Handwritten notes and drawings include:

- Notes about finding a sea slug (ウニ) and its behavior of digging holes in the rock.
- Notes about a starfish (海星) and its color.
- Notes about a crab (カニ) and its legs.
- Notes about a sea slug (ウニ) and its taste.
- Drawings of a sea slug and a starfish.

自分から進んで、絵でも表そうとしている。興味関心の強さが窺える。

大学生から聞いた話の内容をよくまとめることができている。

大度海岸で見つけたよ！

Handwritten notes and drawings include:

- Notes about finding a sea slug (ウニ) and its behavior of digging holes in the rock.
- Notes about a starfish (海星) and its color.
- Notes about a crab (カニ) and its legs.
- Notes about a sea slug (ウニ) and its taste.
- Drawings of a sea slug and a starfish.

実際に触ってみたい体験をまとめることができている。

よごれているように見えていた海の泡が、実はさんごが身を守るために出している粘液と知った驚きをよくまとめている。

単元名

さんご畑見学

関連する教科 総合的な学習の時間

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

さんごの養殖施設・さんご畑の見学を通して、サンゴ礁の役割を知り、沖縄の海のサンゴ礁について関心を持ち、サンゴ礁を守るためにできることを考える。

(評価場面・方法)

ワークシート

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

さんご畑の見学を通して感じた、海の魅力、サンゴ礁の特性、サンゴ礁を守るためにできることをワークシートに書く。

(振り返り)

体験の感想を発表する。

3 めあて

さんご畑の見学を通して、サンゴ礁についてわかったこと、自分たちにできることを考えよう。

4 本時の展開

導入(10分)

1 本時のめあてを確認する

ねらいに沿って体験できるように、明確に提示する。

展開(125分)

2 さんご畑 金城さんのお話を聞く。(25分)

3 さんご畑の見学(80分)

4 ウミガメへのえさやり体験(20分)

見学を通して、サンゴ礁に関する話をよく聞いて、後でワークシートにまとめられるように意識付けする。

終末(45分) 後日学校にて

5 さんご畑の見学を通して感じた、海の魅力、サンゴ礁の特性、サンゴを守るためにできることをワークシートに書く。

写真を用いながら、見学で学んだことを思い出せるように支援する。

児童の学習の様子④さんご畑を見学しよう

さんご畑 を 見学して

小魚を食べる
 20cm以上になると1匹の
 量でオスがメスの区別が
 できる。

1匹の外獲りあてて2匹にし
 ている。

イノキとチコを食する。
 あるくか強い
 さあつた、身をあらわな
 いと体に入るとあなかに
 ある。

この大きな1年くらい
 水が分るとゆらゆら
 しているのが、ここを
 うみガメが食べる。

魚たちはサンゴのすき動
 にかくと、大きい魚が
 分身を守っている。

体験を通して

○さんごを育てている様子を
 実際に見て、1年間で数セン
 チしか育たないことへの驚き
 があった。

さんご畑 を 見学して

小魚を皆あげた。

サンゴ畑
 サングを育てて
 本場の海にそとへ

ミラクルコーラル
 水温が高くてキ
 生きのこる
 1がいせんをあてて...

ガンとサングが育つ
 まで、あつた
 たくさん時間をかけて
 大きく育てさせている。

Before 2009.1.26
 2011.4.25
 2013.3.26
 After 2013.3.26

○さんごが触手を出す様子の
 発見を綴っている。

○珊瑚礁が魚の住処としての
 役割をもつことを理解してい
 る様子がわかる。

○ウミガメの子ガメを手に乗
 せたり、ウミガメに餌やりを
 したりした体験を綴ってい
 る。

○さんごの白化現象への理解

さんご畑 を 見学して

白い、に...
 手...

大き...

白化したサンゴ!! サンゴが
 白化したときは、サンゴの
 中のカ、...

糸満市立糸満中学校



1. ねらい

- (1) 糸満市教育課程特例校「海人（うみんちゅ）科」における海洋教育の取り組みの充実を図る。
- (2) 「海に親しみ、海を知り、海を守り、海を利用する」学習の推進を図り、海洋への関心を高める。
- (3) 「海」という視点を通じて、体験活動やそれらを組み合わせた探究活動を図り、知識・技能、思考力・判断力・表現力を高める。
- (4) 教科横断的な視点に立ち、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成する。
- (5) 生徒が自己の将来や生き方を考え、主体的に進路選択できるよう、キャリア教育の視点からも学習の充実を図る。

2. 方針

- (1) 各学年 15 時間の設定とする。(総合的な学習の時間から 10 時間、学級活動から 5 時間)
※実施は、時間割上の総合的な学習の時間の中で行う。
- (2) 各学年海人科のテーマの下展開する。

1 学年	2 学年	3 学年
「環境と海洋教育」	「地域と海洋教育」	「生きると海洋教育」

- (3) 体験的な活動だけではなく、「探究的な学習」となるよう工夫する。
- (4) 各教科年間指導計画において、海洋教育との関連する内容がある場合はそれを位置づける。
- (5) SDGs や NIE の視点を取り入れた展開を図る工夫をする。
- (6) 全職員の共通理解を図り、十分な協力体制を整える。

3. 年間計画

***海人科 15 時間以上 (原則：総合から 10 + 特活から 5)**

学年	月	主な活動内容	時数	計	関連教科
1	4	○オリエンテーション・アンケート	1	15	特活
	5	○海洋教育講話「海ゴミ問題について」 沖縄水産高等学校	2		理科 社会
		○ビーチクリーン「美々ビーチにて」	2		
	6	○探究活動 (アート作品制作、調べ学習等) ※学年発表会へ向けてプレゼンテーション準備も兼ねる	8		理科 社会 技術
7	○学年発表会	2			
2	4	全体オリエンテーション、アンケート	1	1	
	5	ビーチクリーン	2	6	特活 道徳 社会 理科
		課題設定、活動計画、班編成	2		
		各班に分かれて調査、アンケートの作成	2		
	6	講話「ジョン万次郎と糸満」	2	6	社会 理科
		海と観光、産業について調べ学習①	2		
		海と観光、産業について調べ学習②	2		
	7	発表に向けての準備①(ポスター、CM等)	2	4	国語 美術 英語
		発表に向けての準備②(ポスター、CM等)	2		
9	まとめ	2	2	特活	

学年	月	主な活動内容	時数	累計	関連教科
3	4	○オリエンテーション ※事前アンケート	1	1	特活
		○海洋教育講話Ⅰ「生きる」 講師：災害プラットフォームおきなわ 有村博勝さん	2 特活 2h	3	保健 理科
	5	○防災キャンプ ※美々ビーチ、ふるさと公園（午前中） ①防災調理（湯せん・炊き出し訓練）：（食） ②火おこし&キャンプ体験（廃材等を使用+魚料理）：（食） ③水作り体験（海水をろ過し、飲み水に）：（食） ④シェルター作り（トイレ・寝室等）&ロープワーク：（住） ⑤サバニを使った防災トレーニング （転覆からのセルフレスキュー等）：（医） ⑥救急救命・救助訓練等：（医）	6 総合 3h 体育 2h 特活 1h	9	保健 家庭科 技術
		○海洋教育講話Ⅱ「大規模災害から学ぶ（東日本大震災からの教訓）」※リモート講話予定 講師：	2 特活 2h	1 1	技術 国語 理科
		○防災キャンプや講話を通して学んだことをまとめる（個人）① ○今後取り組みたい活動を考える（個人） ・クロームブックのドキュメントを使用し、防災キャンプで学んだことをまとめる。※例を参考に自由に作成する。 スライド5枚程度	2	1 3	
	○防災キャンプや講話を通して学んだことをまとめる（個人）② ○個人で考えた今後の取り組みについて具体的な実施内容、実施方法を考える。 ・タブレット端末の活用	2	1 5		
6	○学級発表会（4～5名グループ） ※事後アンケート	2	1 7		

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

環境問題となっている海洋ゴミ問題について知り、身の回りのレベルで、海洋の保全に向けどう取り組むことができるかを考える。

(評価場面・方法)

振り返りシートで見とる。

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

海洋では、大量のプラスチックゴミが捨てられており、その発生源や問題点がわかり、きれいで豊かな海を残すためにはどのようにしたらいいか。

(振り返り)

これまでの自分たちの行動を振り返り、身の回りのレベルで、海洋の保全に向け、どう取り組めるかを考えワークシートに記入する。

3 めあて

海の現状について知り、私たちにできることを考えよう。

4 本時の展開(2時間設定・本校体育館)

導入(2分)

(1)学年主任から講師の紹介や注意事項

※開会式後のプランシートとなっている。

展開(40分)

(2)鹿谷麻夕さんによる講話

【内容】

- ①海ゴミはどこからやってくるか
- ②プラスチックごみについて
- ③マイクロプラスチックの発生源、問題点
- ④沖縄の海岸について
- ⑤世界の海ゴミについて
- ⑥エコマテリアルな商品の紹介

終末(8分)

(3)質疑応答を5分

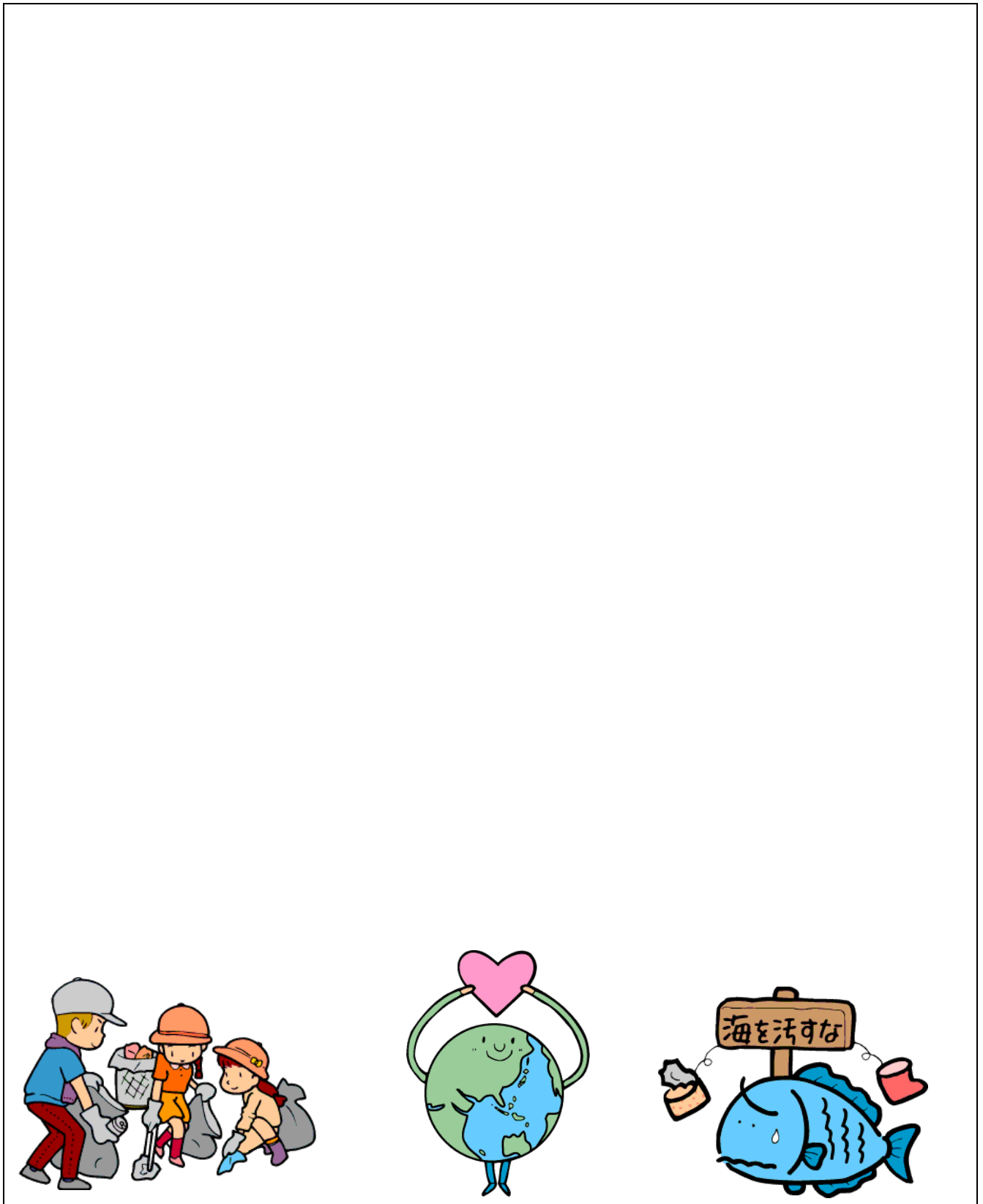
(4)ワークシートに今日学んだことを記入する

※ワークシートは後日提出

「海を学び、伝え、守りたい-私たちにできること」

____年 ____組 ____番 氏名_____

【1】講話中のメモ



1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

海洋教育を通して学んだことをまとめ、創意工夫して発表し、発表力や聞く態度を身につける。

(評価場面・方法)

ワークシートの記入した内容を通して、聞く態度をみとる。

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

海洋教育を通して学んだことをまとめ、創意工夫して発表し、発表力や聞く態度を身につける。

(振り返り)

各グループの発表を見て、学んだことや今後に生かしていきたいことを記入する。

3 めあて

各グループがどんな取り組みをし、発表にどんな工夫をしているか考えよう

4 本時の展開(2時間設定)

導入(10分)

(1)開会式

- ①始めのあいさつ
- ②説明と諸注意

※会が始まる前に、各学級の代表者はリハーサルを実施(30分)

展開(80分)

(2)発表

- 各グループ6～8分の発表時間で発表する。
- ※ワークシートに発表の評価と感想を記入する。

- ※各学級8グループ編成
- ※途中トイレ休憩

終末(10分)

(3)閉会式

- ①感想の記入(5分)
- ②講評(5分)

※ワークシートを回収

1 学年総合的な学習の時間 海洋教育 発表会評価シート

年 組 番 氏名 _____

※各グループの発表を聴いて、各項目で評価しましょう。

評価項目

- ① 声の大きさや話し方・・・しっかりみんなに聞こえるように大きな声ではっきりと発表しているか。
- ② 内容やまとめ方・・・みんなにわかりやすくまとめられているか。
- ③ 発表態度・・・・・・・・発表の時に堂々と発表していたか。

	発表テーマ	声の大きさ	内容	態度	評価合計	感想
1		悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	合計 /15 点 位	
2		悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	合計 /15 点 位	
3		悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	合計 /15 点 位	
4		悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	合計 /15 点 位	
5		悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	合計 /15 点 位	

6		悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	合計 /15 点 位	
7		悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	合計 /15 点 位	
8		悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	合計 /15 点 位	
9		悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	合計 /15 点 位	
10		悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	悪 → 良 → 優 1・2・3・4・5	合計 /15 点 位	

○発表会振り返り

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

探究活動を通して、知識・技能、思考力・判断力・表現力を高める

(評価場面・方法)

学年発表会や作成した壁新聞などで評価する。

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

自分の考えを発信するためには、壁新聞等、いろいろな表現方法がある。

(振り返り)

自分ができたことやできなかったことを確認し、今後はどのようなことに取り組んでいきたいかを考える。

3 めあて

テーマ設定・調べ学習を通して、海に関する事柄の理解を深める。

4 本時の展開(10時間設定)

1時間目

・海洋教育のコンセプトと12分野より、各学級のテーマを設定して班編成し、グループのテーマを決めて調べ学習を行う。
・各グループ、どんなことに取り組んでいくかを話し合い活動を通して決定する。

2時間目～10時間目

学級で決定した内容を元に、10時間で探究活動を行う。

(1)壁新聞作成

(2)パワーポイント作成

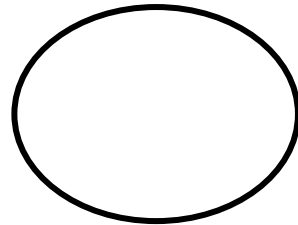
(3)発表の準備

各学級で取り組みを進める。

2 学年海洋教育(ウェビング) 学級テーマ [海洋と]

2年 組 番()

【グループのテーマ決め】真ん中の○に学級のテーマを入れて、ウェビングで連想させてアイデアをふくらませてみましょう。そしてグループで取り組むテーマを考えましょう。



2学年海洋教育 グループのテーマ決定・調べ学習の見通しを考える

2年 組 番()

決定したグループのテーマ → さらに自分の決めたテーマ



このテーマにした主な理由(～だから) (なぜこのテーマを調べようと思ったか。)

グループのテーマを他の人に伝えるためには、どんなことを調べればよいか。調べる項目を考えてみよう。

さらに、どんな資料を持ってくれば、より伝わるでしょうか。考えてみましょう。

グループのメンバー(役割分担をしっかりと分ける)

班長(グループをまとめる)	副班長(班長をサポート)	記録係(資料まとめ保存)	準備係(資料や発表の準備)	準備係(資料や発表の準備)

今後の調べ学習の見通しをつけよう(計画)。 進めながら変更してもよい。※新聞つくりの見通しも同時に行う。

調べ学習①

--	--



調べ学習②

--	--



調べ学習③

--	--



調べ学習④

--	--



調べ学習⑤

--	--

発表に向けて新聞つくりまとめ

グループのテーマ

2年 組 番 []

学級で、テーマについて発表する際は、スライド(パワーポイント)で発表しますので、それぞれ担当を決めて、スライドを作成して下さい。

(まえがきとあとの担当も決める。)

また新聞も作成するので、それぞれの記事を担当する人も決めて新聞作成をグループでしてください。

グループでの分担(話し合い)

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">まえがき</div> 班のテーマ説明 班のメンバー紹介	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">スライド①</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">スライド②</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">スライド③</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">スライド④</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">あとのき</div> 調べ終えて、わかった ことや感想等
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">題字・新聞名</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第1記事</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第2記事</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">第3記事</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">カコミ記事</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">編集後記・その他</div>
題字 「 _____ _____ 」 新聞名 「 _____ 」	記事の内容	記事の内容	記事の内容	記事の内容	新聞・調査を終えて
担当者名	担当者名	担当者名	担当者名	担当者名	担当者名




海洋教育 調べ学習ワークシート

スライドの下書き

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for students to write their notes or answers related to the slide content.

スライドの例

自分の担当する(発表する)分担のスライドを、写真やイラストを入れながら1枚にまとめる。(発表用のシナリオも用意する。)

<p>まえがき テーマ</p> <p>「海洋と地球環境」</p> <p>メンバー 糸満一郎 沖縄二子 琉球三男 金城四助 大城五美</p>	<p>スライド① 海洋の種類</p> <p>太平洋 大西洋 インド洋</p> 	<p>スライド②</p> 
<p>スライド③ 自然災害</p> 	<p>スライド④</p> 	<p>あとがき 調べ終えて、わかったことや感想等</p> 

1 本時のねらい	
(身に付けさせたい力) ① 講話を聞いて、ジョン万次郎の生き方や人間性に触れ、自分の将来の目標や人生設計を考える機会とする。 ② 歴史的な偉人が、地元糸満と結びついていることに興味を持ち、関心を高める。	(評価場面・方法) 振り返り用紙から読み取る。
↑	
2 まとめ、振り返り	
(まとめ) 好奇心があり行動力があるジョン万次郎の生き方から、分かったことや学んだことをまとめることができる。	(振り返り)
↑	
3 めあて	
ジョン万次郎から生き方や考え方を学ぶことができる。	

4 本時の展開	
導入(6分) はじめのことば(司会) 講師紹介(校長先生)	【事前指導】 ・振り返り用紙を生徒に配り、講演会を聞きながらメモを取ることを指示する。
展開(65分) 講話 質疑応答	・講話中は、私語や立って歩かないことを事前に指導する。
終末(4分) お礼のあいさつ(生徒代表) 終わりのことば(司会)	・振り返り用紙に、学んだことや感想を記入する。

「海洋教育講演会：ジョン万次郎に学ぶ生き方」

2 年 組 番 氏名 _____

【1】講話中のメモ



1 本時のねらい	
(身に付けさせたい力) 防災キャンプの事前学習として「自助・共助・公助」について理解する。実際に災害時にどんな行動が必要なのか知識を身に付ける。	(評価場面・方法) 振り返りシートに記入させる。 テント設置体験で仲間と協力して積極的に活動しているか。

2 まとめ、振り返り	
(まとめ) 東日本大震災のボランティアを経験した講師の話を聞いて災害時にどんな活動が必要なのか理解する。テント設置に関する技術が身についた。	(振り返り) これまでの自分たちの行動を振り返り、身の回りのレベルで、海洋の保全に向け、どう取り組めるかを考えワークシートに記入する。

3 めあて	
<ul style="list-style-type: none"> ・防災キャンプを実施する前に東日本大震災に関する講話を通して防災への意識を高める。 ・テント設置体験をし、テント設営に関する技能を身に付ける。 	

4 本時の展開(2時間設定・本校体育館)	
導入(10分) (1)講師紹介・本日の流れの説明	
展開(70分) (2)講師:有村博勝さんによる講話「生きる」 【内容】 ①被災するということはどういうことか ②実際に被災地のボランティアを経験して ③「自助・共助・公助」とは何だろうか ④防災キャンプで学べること ⑤テント設置体験	※2時間設定での実施のため、 頃合いを見て、トイレ休憩など を入れる。
終末(15分) (3)質疑応答・感想発表 (4)教室に戻りながらキャンピングカーの見学	※防災キャンプ当日に向けて 意識付けをさせる。

1 本時のねらい	
<p>(身に付けさせたい力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に対する正しい知識、防災・減災への理解を図り、災害時に生き抜く力を身に付ける。 ・防災キャンプを通して、防災時における正しい技能、判断力を身に付ける。 	<p>(評価場面・方法)</p> <p>防災キャンプでの行動観察、講演会、防災キャンプの振り返りシート、個人発表会(クロームブック使用)</p>

2 まとめ、振り返り	
<p>(まとめ)</p> <p>活動を通して、実際の災害時に役立つ知識・技能を身に付け「自助・共助・公助」の意識を高めることができた。</p>	<p>(振り返り)</p> <p>防災キャンプ後の感想用紙に活動を通しての振り返りを記入させる。 個人スライドを作成し、学級単位で発表会を行う。</p>

3 めあて	
<ul style="list-style-type: none"> ・防災キャンプを通して防災への意識を高め、防災時に役立つ技能を身に付けよう。 ・「自助・共助・公助」の意識を高めることができる。 	

4 本時の展開(6時間設定・美々ビーチ糸満・ふるさと公園)	
<p>導入(20分)</p> <p>(1) 諸注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 当日の活動の流れについて ② 活動する範囲や時間の確認 ③ 安全面や班活動についての注意 ④ 講師紹介・あいさつ 	<p>【事前指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動の背景やねらい、活動場所、時間、班活動時の注意、安全指導、衛生指導
<p>展開(240分)</p> <p>(2) 各コースに分かれて防災キャンプ体験活動(150分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 活動場所へ移動 ② 各コースで防災キャンプ体験 <p>(3) 美々ビーチにてチームビルディング(サバニ漕ぎ競争・バケツリレー競争)(90分)</p>	<p>※各コース講師とともに安全に活動し、知識・技能を身に付けることを目的とする。 ※クラスで協力して体験活動に取り組む。</p>
<p>終末(10分)</p> <p>(4) まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 閉会式・感想発表を行い、本日の活動について振り返りをさせる。 	<p>※活動を通しての感想を発表させ、全体共有する。</p>

令和3年度 3学年海洋教育

年 組 番 氏名

() コース

1. 今日の流れ、活動内容を書こう。

① _____

② _____

③ _____

④ _____

2. 分かったこと・気づいたこと・工夫したことを記入しよう。

①の活動内容メモ欄

②の活動内容メモ欄

3 学年 防災キャンプ個人まとめ発表会

年 組 番 氏名

1. 発表を聞いての感想を書こう

() コース	発表者：
メモ欄	
よかったところ・気づきなど	

() コース	発表者：
メモ欄	
よかったところ・気づきなど	

() コース	発表者：
メモ欄	
よかったところ・気づきなど	



転覆したサバニを起こして水をかき出す生徒たち＝糸満市西崎町・美々ビーチいとまん

自分を守る方法を学ぶ

水作り、火を起こして炊飯

災害が起きたときの対応や防災について学ぼうと、糸満中学校の3年生が7日、糸満市西崎町の糸満海のふるさと公園などで、防災キャンプを実施しました。ペットボトルを使って泥水を作ったり、火を起こして炊飯した。楽しみなが、災害時に役立つ知識を身につけました。生徒たちは自分の身を守り、身近な人同士で助け合おうと意識を高めたようです。

「海人のまち」といわれる糸満市。糸満中では身近にある海について知り、利用するための海洋教育に取り組んでいます。その一環として、総合学習の時間を活用して、防災キャンプを開きました。

炊き出し▽火起こし▽水作り▽簡易テント作り▽サバニを使った防災▽救急救命・救助の六つのコースが設けられ、生徒はそれぞれ学びたいものを選びました。水作りでは、切ったペットボ

ルの容器に、サンゴのかけらや砂、コーヒーフィルターなど身近にある素材を入れ、オリジナルのろ過器を製作しました。

数回ろ過を繰り返すと、だんだんと水の濁りが薄まりました。濱元莉留さん(14)は「ろ過するのは、時間もかかって大変だった。水の大切さが分かった」と笑顔で話しました。



ペットボトルとサンゴや砂などを利用したろ過器で水をこす＝糸満市西崎町・糸満海のふるさと公園

楽しみながら「防災キャンプ」

確認をしたり、心臓マッサージをしたり、救助のための一連の動作を学びました。与那原美羽さん(14)は「命の大切さが改めて分かった。もし倒れている人がいたら助けて」と語りました。

金属性の道具で火花を起こしてフラに着火する体験をした安里俊樹さん(15)は「なかなか火が着かなかったし、まきを割るのも力が必要で、何から何まで大変だった」と苦労した様子でした。

サバニを使った防災訓練は市西崎町の美々ビーチいとまんで行われ、転覆したサバニを元に戻す体験などをしました。

上原杜葵さん(15)は転覆したサバニの中に入り、海面と船体の間に残った空気で呼吸する体験をしました。「びっくりしたけど、頭がぎりぎり入る隙間があって、十分息ができた。糸満のハレ文化をより知ることができてよかった」と楽しみながら、いろいろなことを学んだようです。



簡易テント作りで、ロープの結び方を学ぶ生徒たち＝糸満海のふるさと公園

令和3年度竹富町海洋教育サミット参加要項

1. 主 催 竹富町教育委員会
共 催 日本財団、東京大学海洋教育センター、笹川財団海洋政策研究所
2. 趣 旨 町内各校が一堂に会し、各学校・各地区で行われている海洋教育の実施や成果を交流するとともに、他地域の学校も招聘して交流することより、海洋教育の学びを深める。
3. 参加期間 令和3年12月20(月)～21日(火)
4. 場 所 石垣市、竹富町
＜竹富町海洋教育サミット＞
竹富町立大原小学校 体育館
5. 参 観 者 発表者：糸満市立糸満中学校1学年(5名)
 - ・川上妃末里(1年1組) ・新垣萌々香(1年2組)
 - ・大城 琴音(1年3組) ・玉城 陽介(1年4組)
 - ・岩崎 匠馬(1年5組)
6. 発表、その他様子



糸満市立高嶺中学校



海人科全体計画

1 ねらい

- (1) 糸満市の教育課程特例校として開設される「海人（うみんちゅ）科」として、糸満の海に関する学習を展開し、糸満の海洋に関する興味関心を高める
- (2) 海洋に関する諸課題について、多面的・多角的に捉えて、調査・探究することを通して、課題を解決していこうとする態度を育てる
- (3) 各教科との横断的な関連を図り、生徒の学習意欲を高め、深い学びにつなげる

2 本年度のテーマと各学年のテーマ

全 体	海人が活躍した糸満の海を学び、未来へつなげていこう
3 学年	「持続可能」：海を活かしたこれからの糸満のまちづくりについて探究しよう
2 学年	「環境」：海の環境について調査し、環境保全について探究しよう
1 学年	「地域」：地域の歴史と海洋の関わりやくらしと海洋の関わりについて探究しよう

3 方 針

- (1) 各学年 13 時間の設定とする（総合的な学習の時間から 10 時間、学級活動から 3 時間）
- (2) 各学年の総合的な学習の時間のテーマ、探究課題との関連を図って実施する
- (3) 体験的な活動から「探究的な学習」になるように工夫する
- (4) 各教科と横断的に関連させる
- (5) 小学校の取り組みを踏まえて計画し、9 年間を見通して計画を立てる
- (6) 全職員の共通理解を図り、連携して取り組むようにする

4 学習内容と具体的取組み

【1 学年】実施時期（9 月～）

具体的取組	「地域」とSDGsの視点で海洋について取り組み、地域の歴史と海洋の関わりや、くらしと海洋の関わりについて、探究させる取り組みとしたい。
-------	---

回	時数	学習内容	具体的取組
1	1	海洋オリエンテーション	1 学期の総合的な学習の時間で取り組んだSDGsや探究のスキルを基に糸満の伝統的な帆掛けサバニ、漁業の歴史などについて学習の見通しと学習課題の設定を行う
2	1	糸満の漁業について	糸満の成り立ちや、高嶺の海との歴史的なつながりについて学習する【関連：社会・理科】
3	1	サバニ体験事前学習	帆掛けサバニの体験に向けて取り組む【関連：社会】
4	4	海人工房・サバニ体験	海人工房見学と帆掛けサバニ体験（予定 9 月 2 4 日）
5	2	体験まとめ	体験を通して気付いた事や、探究したい課題を見つけて解決するための調査を行う。10 月の PBL 学習、12 月の体験ウィークと関連させる
6	4	まとめ	探究したテーマのまとめを行う
合計	13		

【2学年】実施時期（7月～）

具体的取組	「環境」の視点で海洋に取り組む。特に海洋プラゴミについて大度海岸での調査を継続し、プラゴミの種類やどこから流れてきているかなど調査したデータを基に探究する活動としたい。また、珊瑚の状況など調査する活動としたい。
-------	---

回	時数	学習内容	具体的取組
1	1	海洋オリエンテーション	総合的な学習の時間で取り組んだSDGsを基に主に環境について課題を設定して探究する。大度海岸の生物や海洋ゴミについて調査を行う。また、海ブドウや特産品など環境と商業の調和などについて課題を設定する
2	2	大度海岸の自然学習	大度海岸の生物や、海洋ゴミの現状などを大まかに学習して、調査に入る前の意欲を高めさせ、事前に必要な知識を習得させる【関連：理科】
3	4	自然調査	大度海岸調査や塩づくり、海ブドウなどの体験を通して課題を見つけて探究する（予定7月2日）【関連：理科】
4	2	体験後のまとめ	体験を通して気付いた事や、探究したい課題を見つけて解決するための調査を行う。10月のPBL学習と関連
5	4	まとめ	体験を通して気付いた事や、探究したい課題を見つけて解決するための調査を行う。10月のPBL学習、12月の体験ウィークと関連させる
合計	13		

【3学年】実施時期（6月～）

テーマ	「持続可能」の視点で、過去から現在、将来につながる漁業の在り方や、前年度の継続調査で環境の視点で糸満のこれからの漁業やまちづくりの在り方を考える
-----	--

回	時数	学習内容	具体的取組
1	1	海洋オリエンテーション	糸満のまちづくりの提案において、海を活かし、持続可能な生活を基本にしたこれからの生活の在り方を中心に探究活動を行う （平成元年度 帆掛けサバニ体験・ロープワーク） （令和2年度 PBL 大度海岸環境調査・海ブドウ・塩） の学習を基礎として今後を考えさせる
2	2	糸満の漁業について	糸満の漁獲量や種類などの調査を行い、海産物を活かした郷土料理の調査を行う。また、糸満で獲れた海産物を活用した魅力のある創作料理を考案する【関連：家庭科】
3	4	海を活かしたまちづくりについて探究課題を設定する	糸満漁業・おさかなセンターなどに出向いて、魚の種類などの調査を行う。郷土料理の工夫点を調査する【関連：家庭科・社会】
4	2	〃	海産物を活かした創作料理の考案・試作などに取り組む
5	4	探究課題のまとめ 発表の作成	試作した料理の発表を行う 【視点】①持続可能である事 ②親しみやすい料理 ③新しい発想
合計	13		

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

糸満の海の発展を支えたものは何だろうかという視点と、糸満の漁師の工夫について、理解させてさらに探求しようとする力

(評価場面・方法)

○ワークシート
○体験のしおりなどのメモ

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

糸満の漁師の「漁具」を調べ、工夫されている点に気づくこと。また、サバニの由来やサバニに釘が使われていない理由などについて考える

(振り返り)

学習したことを、体験当日に活かせるように、疑問点はワークシートや体験当日のしおりにメモしておくこと

3 めあて

糸満の海人の工夫について考えよう

4 本時の展開

導入(10分)

質問「これを見たことがありますか」

「水中めがね(ゴーグル)」「枕のようなもの」「ちりとりのようなもの」

「サバニに使われた道具」

質問「サバニには使われていないものがあるそうです」

正解は(鉄くぎ)・・・その理由と鉄くぎに代わるものは？

○ワークシート準備OK

展開(30分)

タブレットにログイン

○検索ワード「糸満」「水中めがね(ゴーグル)」「枕のようなもの」

「ちりとりのようなもの」「サバニに使われた道具」

○それぞれの漁具や、ワークシートにのっていないものも調べてみよう

○サバニの由来とは？

○サメを採るのはなぜ？

○興味を持った情報を集めるようにしましょう

・方言で何といふかなどもチェック

・海人工房のパンフレットも活用

・タブレットを持ち帰って、家の人に聞いてみる事もOK

終末(10分)

○調べ学習で解らなかったことを、体験学習で訪れたときに聞くこと

○ワークシートにまとめさせて次の学習につなげる

糸満の漁具について事前にチェック

糸満の伝統的な漁具について、何に使っていたかを調べましょう。
これは何という道具で、何をする道具だと思いますか？



道具名 ()
何をする



道具名 ()
何をする



道具名 ()
何をする

サバニについて事前にチェック

サバニについてチェックしよう

11月2日に糸満海人工房を見学した時に再確認しましょうネ



これを何というでしょう

これはなぜこのような形で、どのような効果がありますか



これはサバニを漕ぐ「かい」です 原材料はなんでしょう

方言で何と呼ぶでしょう

海人科（海人工房見学・帆掛けサバニ体験）で知りたい事・質問したい事を書こう

単元名

糸満の海を知る(海人工房・帆掛けサバニ)

関連する教科

1 本時のねらい	
(身に付けさせたい力) これまで学習してきたことを体験を通して体感し、より身近に感じる事でさらに探究していこうとする力	(評価場面・方法) ①ワークシート ②事後のまとめ、新聞作成
↑	
2 まとめ、振り返り	
(まとめ) 体験を通して、それぞれが感じたこと、考えたこと、理解したこと、疑問点などをそれぞれ出させる	(振り返り) 体験後、更に4～5時間程度のまとめの時間を設定するので、それぞれの探究したいことを大切にすること
↑	
3 めあて	
糸満の海を感じよう(糸満海人工房・古民家・帆掛けサバニ体験)	
4 本時の展開	
【行程表】 8:30 学校中庭に集合整列し、出席確認・健康観察後、諸注意を行う。 8:45 バスに乗車 糸満海人工房まで移動 9:00 糸満海人工房着 諸注意 9:00 糸満海人工房見学(90分) 1組 古民家 → 資料館 2組 資料館 → 古民家 見学終了後バスで美々ビーチ糸満まで移動 10:30 美々ビーチ糸満着 諸注意 11:00 帆掛けサバニ体験(60分) (1) 開会式・日程の確認・安全指導・諸注意・健康観察 (2) 帆掛けサバニ体験 1組 サバニ体験 → ロープワーク体験 2組 ロープワーク体験 → サバニ体験 12:00 体験終了後 昼食(60分) 13:00 集合整列・健康観察・諸準備 14:00 バスに乗車 学校まで移動 学校着 健康観察後 帰宅	(1) 悪天候の場合には中止 (2) 延期の場合調整する。 (3) 安全に十分に注意し、指示を聞いて行動できるように事前指導を徹底する。 (4) 体調不良者がいる場合は、保護者に連絡を入れる。 (5) 実習中はライフジャケットを常時、正しく着用させる。 (6) 講師からの基礎知識を得てから、実習を開始させる。 (7) 一人では行動させない。 ○ 当日の潮の干満 干潮 午前10時53分(中潮)
まとめ ○体験のしおりを記入する ○学習したことの振り返りを行う 体験からわかったこと、疑問に思ったことなどを整理する 【事後】新聞にまとめさせる	○ワークシートにまとめさせて次の学習につなげる

グループ編成（乗船可能人数→双舟16名程度 単舟7名程度）

私が乗る舟は（ 双舟 単舟 ）です。

いっしょに乗るメンバーは、

体験メモ

【古民家についてメモをしましょう】（工夫しているところ・発見・わかった事・説明を聞いて）

【資料館についてメモをしましょう】

10月20日に学習したワークシートから思い出してみよう



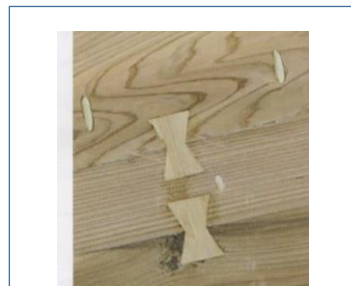
()



()



()



()

資料館でわかったことなどをメモしましょう！

♪まとめを作成するので、しっかりとメモを取りましょうネ♪

今回の海洋教育を通してわかったことや感想・思い出を書いてネ

提出です！

担任の
サイン

1 本時のねらい	
(身に付けさせたい力) 2学年の海洋教育のテーマ「環境」について海岸のようすを把握して、興味関心を高めさせる。自然環境の学習を基礎に、体験当日自然に触れることで既習事項を確認し探究につなげる	(評価場面・方法) ワークシートを活用して調べた状況を把握する。また、ファイリングすることで次の学習につなげる。タブレットを活用してそれぞれの興味関心に沿って調べているか看取る

2 まとめ、振り返り	
(まとめ) 大度海岸の概要を抑えることが出来る。またジョン万次郎が上陸した場所である事に気づき、日本の歴史上ポイントとなる場所である事から歴史についても興味関心を高める	(振り返り) 大度海岸の大まかな把握が出来る。今後の学習に活かしていけるようにする

3 めあて	
「大度海岸」の自然や歴史を簡単に説明しよう	

4 本時の展開(2時間設定)	
導入(10分) ○ 昨年度の大度海岸環境調査の写真をスライドで示す。 ○ 今年度も大度海岸の環境調査について取り組む事を確認する 質問① 「大度海岸」って知ってる？ 質問② 「大度海岸のジョン万次郎の像」を示して、「この人は誰でしょう」 質問③ 「大度海岸には何がが多いでしょう」	・昨年の写真スライド準備OK ・ワークシートOK <u>これから2時間にわたって調べ学習を行います</u>
展開(30分) タブレットにログイン 【6月24日】 ○ 検索ワード「大度海岸」でそれぞれチェックしてわかりやすくまとめましょう ○ 大度海岸情報をワークシートにまとめましょう ○ 予想 「サメが多い」「観光客の穴場スポット」「水難事故が多い」 「潮干狩りができる」「ウミガメの産卵がみられる」 「ジョン万ビーチと呼ばれている」「サーファーもいる？」 【7月1日】 ○ 琉球新報「キジサガス」にログインし、新聞記事から興味を持った情報を集めるようにしましょう	・なるべく多くの情報を ・事件事故・噂話などなんでもOKとする 【できれば】 ・ウミガメ ・生き物など調べた生徒のワークシートを紹介する ・ジョン万次郎も
終末(10分) ○ ワークシートを回収して、教師で紹介する ○ 夏休み明けに「大度海岸環境ハンドブック」を使ってさらに調査する	○ ワークシートにまとめさせて次の学習につなげる

大度海岸について（自然環境・歴史など）調べてみよう

- ☑ 大度海岸の場所を確認しよう（航空写真・地図などを参考に大度海岸の場所に色を付けてみましょう）



- ☑ 大度海岸の概要（簡単な説明）を調べて、自分自身がわかるようにまとめましょう

- ☑ 大度海岸が別名「ジョン万ビーチ」といわれている理由を調べて簡単に説明してみよう

- 大度海岸について調べてみる中で、もう少し調べてみたい事・気になった事・大度海岸の情報などについて書いてみよう（箇条書きでも OK です）

感想

(琉球新報キジサガス) を使って大度海岸について調べてみよう

【検索方法♪】

- (1) タブレットの検索で「キジサガス」とうって検索をします
- (2) 琉球新報ログインページ ユーザー名：
パスワード： を入力
- (3) 記事検索を選択します
- (3) 検索ワード 例えば 「大度海岸」 「ジョン万ビーチ」 「大度海岸 自然」 などと入れて
新聞記事から大度海岸についていろいろな角度で調べてまとめましょう。

【感想】

単元名

海ブドウを調べよう

関連する教科

理科

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

海ブドウの生態を知って、「今現在は主に養殖で市場に出されている事実をどうとらえるか。自然環境の保護という視点と、自生ではなくて養殖で増やしていくという視点で「持続可能な開発」について関連させて考える力

(評価場面・方法)

○ワークシートを活用する

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

海ブドウの特徴、生態、沖縄と海ブドウなど、海ブドウについて大まかに理解する事が出来る

(振り返り)

「海ブドウが自生していないこと」など、環境について気になる事から次の学習につなげていけるようにする

3 めあて

海ブドウについて、簡単に説明しよう

4 本時の展開

導入(5分)

質問「海ブドウを食べたことありますか」
今年度も海ブドウ収穫体験を行います！

海ブドウについて調べてみよう

なるべく簡潔に手短かに
海ブドウがあれば・・

展開(35分)

○タブレットを活用して海ブドウについて調べ学習を行う。

○検索ワード「糸満」「真栄里」「海ん道」で海ブドウ養殖を行なっている場所をチェックしてみましょう。

○海ブドウの「正式名称」「生態」「海ブドウに関する情報」を調べましょう

○海ブドウを加工した商品はあるか

○どれくらい知られているか

○海ブドウを活用する(もっと販売する)としたら、どのような方法が考えられるか

・タブレットで検索する
・面白いものを検索しよう

・「自生していない？」という視点も取り入れて、実際に養殖場「海ん道」を訪問した時に、聞いて確認につなげるようにしましょう

・海ブドウアイス・・

終末(10分)

それぞれのワークシートを回収して、面白いものを紹介する

○特に「海ブドウを活用したもの」が考えられて記入されているワークシートを紹介して方向づける

海ブドウについて調べてみよう

糸満市真栄里にある「海ん道」では、海ブドウの養殖をしています。調べてみよう！

(1) 海ブドウとは何か(特徴・正式名称・沖縄と海ブドウ などについてチェックしよう)

(2) 海ブドウを活かして出来る事を考えよう

記事などを検索して、海ブドウの活用方法、私が考える海ブドウを活かした何か出来る事などを考えてみよう。

【感想】

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

これまでの海洋教育の学びを、わかりやすく伝えること。網走の海洋(流氷)についてオンラインでの会話を通して知ることで、海洋について視野を広げ、興味関心を高める。また、新たな「問い」を次の学習につなげる力を育成する

(評価場面・方法)

①まとめをわかりやすく伝える事が出来たか
②新たに「問い」を持って自主的な学びにつなげようとしているかについてワークシートで確認する

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

網走の自然環境や暮らしについて学習し、沖縄とは異なる地域への興味関心を高め、日本の北と南の海洋の環境の違いに気づくことが出来る

(振り返り)

異なる自然環境を知り、身近な海を改めて見つめなおすことが出来る

3 めあて

沖縄と北海道の海の違いをみつけよう

4 本時の展開

導入(10分)

前時：各クラスとも6名5班を編成し、これまでの学習をまとめさせておく
全体会を行い、今回の趣旨説明を行う。また交流する時間や方法など確認する

網走第二中と事前に打ち合わせを行いそれぞれの班で「Zoom」を繋げて交流する。

Wi-Fi状況やハウリングなどの調整を行う

展開(30分)

各班に分かれてそれぞれの「zoom」で繋ぎ交流を始める

1組 1～2班・・・1組の教室内 3～4班・・・音楽室

5班・・・調理室

2組 1～2班・・・2組の教室内 3～4班・・・視聴覚室

5班・・・調理室

【交流方法】

①自己紹介 簡潔に

②取り組んだ内容の発表を行う

網走第二中学校 (10)

質問時間 (5) 疑問に思ったことなどは積極的に質問する

高嶺中学校 (10) わかりやすく発表

質問時間 (5) 的確に答えられるように協力する

○各教室に学年所属の職員が待機してフォローする
*各班で密にならないようにすることや、マスクをするなどの感染対策をしっかりしましょう

○学校生活の質問なども積極的に行えるようにし、くらしの違いを感じさせる

○通信状況が悪い場合対応

発表が時間内に終わった場合は、学校生活の事なども質問して交流する

終末(10分)

全体交流に戻る お礼のあいさつ →

交流を通じてわかったことや疑問などをワークシートに記入すること

今後は、流氷などについて調べてみる事を確認する

○ワークシートにまとめさせて次の学習につなげる

2年()組()番 名前()

北海道 網走市立第二中学校とオンラインでつながろう

オンライン交流を通じて、網走の自然環境や暮らしについて学習し、沖縄とは異なる地域のくらしや、中学生の生活を知ろう。いつか北海道にいけたらいいですね！
また、海洋教育で学習した内容をまとめ、発表し、沖縄・高嶺・私たちを紹介しましょう
さらに、糸満市と網走市は、友好都市となっています。交流を深めよう！！

日程確認

13:50～13:55 各学級でスタート。全体会を行います。

13:55～14:00 それぞれの場所にグループで移動です。

2の1・・・A・B班(教室) C・D班(音楽室) E班(美術室)

2の2・・・A・B班(教室) C・D班(視聴覚) E班(美術室)

14:00～14:30 それぞれの場所で、タブレットでつながってるので、タブレットの前に集まって交流スタート！

- (1)まずは簡単に自己紹介をしましょう
- (2)グループでまとめた資料をわかりやすく伝えましょう
- (3)考えた質問を出して、お互いに交流を楽しみましょう

14:25～14:30 教室に戻ってきてください

14:30～14:40 全体会 高嶺代表挨拶 (2の2:玉城あかり)

交流の時のメモ

感染防止を徹底して、密にならないようにすること！

オンラインで網走と交流

糸満高嶺中 寒暖差も学ぶ



高嶺中から網走第2中に出題したクイズの解答を説明する伊敷瑠成さん（左）＝9月30日、高嶺中学校

【糸満】高嶺中学校（有銘真一郎校長）2年生と北海道網走市立第2中学校（垣内孝仁校長）3年生が9月30日、オンライン授業で交流し南北の寒暖差などについてクイズ

などを通して学んだ。

糸満市と網走市は2001年に友好都市となり、これまでも経済団体や議員団が訪問交流を重ねてきた。オンライン授業は網走第2中からの働

き掛けで実現。双方の学校で6グループを編成し、グループで1台の端末機を使用してやりとりした。

各グループは事前に準備したクイズで、特産物や気温など地域の特色をお互いに質問。気温の違いに驚き、相手校に同じ名前の生徒や格好いい生徒が登場すると歓声が上がるなど和気あいあいとした雰囲気の中で進化した。

高嶺中の国吉真紗也さんは「会話に時間のずれがある不便さはあったけど楽しかった」、伊敷瑠成さんは「ジャージー（体育着）の厚みに北と南の違いを感じた」と話した。

学年主任の仲間敦先生は「地理の授業で北海道について学んでいるところなので、とても良い機会になった。生徒が楽しく取り組んでおり、オンライン授業の効果はとても大きかった」と喜んでいた。

（崎山正美通信員）

単元名

糸満の海の環境を考える

関連する教科

1 本時のねらい	
(身に付けさせたい力) これまで学習してきたことを体験を通して体感し、より身近に感じる事でさらに探究していこうとする力	(評価場面・方法) ①ワークシート ②事後のまとめ、新聞作成
↑	
2 まとめ、振り返り	
(まとめ) 体験を通して、それぞれが感じたこと、考えたこと、理解したこと、疑問点などをそれぞれ出させる	(振り返り) 体験後、更に4～5時間程度のまとめの時間を設定するので、それぞれの探究したいことを大切にすること
↑	
3 めあて	
糸満の海を考えよう(大度海岸環境調査・海ブドウ収穫体験・塩作り)	
4 本時の展開	
【行程表】 8:30 中庭に集合整列し、担任で出席確認・健康観察後、諸注意 8:45 バスに乗車 大度海岸まで移動 9:00 大度海岸 着 9:10 諸注意・安全の確認後 大度海岸の環境調査(150分) 11:30 昼食・休憩 12:30 バスに乗車 (株)日本バイオテックまで移動 13:00 (株)日本バイオテック着 13:30 海ブドウ摘み取り体験・塩作り体験(60分) 14:30 バスに乗車 高嶺中まで移動 15:00 学校着学校着 健康観察後 帰宅	○学校指定トレパン ○濡れてもよい服装 ○弁当・水筒(ペットボトル可) ○濡れても良い靴(スリッパ) ○タオル(2枚程度) ○体育着(2枚程度) ○ビニール袋(着替えを入れる) 必要に応じて、酔い止めの薬や日焼け止めクリームなどを準備 * 高嶺中学校コロナ感染防止対策ガイドラインを徹底する * 施設ごとの感染防止マニュアルの厳守する
まとめ ○ 体験のしおりを記入する ○ 学習したことの振り返りを行う 体験からわかったこと、疑問に思ったことなどを整理する 【事後】 新聞にまとめさせる	○ワークシートにまとめさせて次の学習につなげる

大度海岸環境調査

1 調査の目的

- (1) 大度海岸の漂着物・プラスチックごみの状況を調査し、環境汚染の現状を確認しよう
- (2) 大度海岸ハンドブックの生物について、珊瑚を中心に確認しよう
- (3) 環境調査を通して、持続可能な社会の実現のためにできる事を考えよう

9 : 0 0 ~ 1 1 : 3 0

海岸で見られる生物をチェック・漂着物集めを行います

気づいたこと・発見したことを書こう

海ブドウ収穫・植え付け・塩づくり

1 海ブドウ収穫・植え付け・塩づくりの目的

- (1) 海ブドウ栽培を見学し、収穫・植え付けた体験や、塩づくり体験を通して、海にかかわる職業について学ぶ機会としよう
- (2) 体験を通して、海の豊かさに触れ、持続可能な社会を考える機会としよう

13:30～14:30 メモを取って下さい♪

- ◎ 体験時の質問も考えておいて、質問しましょう

体験を終えて振り返りを書こう

担任印

大度海岸で見つけたウキは どこから来たのか！？



糸満市立高嶺中学校2年2組 沖田椿

テーマの理由

海洋学習で大度海岸に行った時に流れ着いていたウキを見つけました。そのウキには中国語らしい文字が書かれていて気になったので調べてみようと思ったからです。

調べたこと

大度海岸に流れ着いていたウキは、中国の東側の端っこのチョーチアンというところのウキでした。



中国の東側の端っこのチョーチアンというところのウキが、なぜ大度海岸にあったのか。そこで私は3つ仮説を考えてみました。

仮説 1

中国のチョーチアンから海流で流れてきた。

仮説 2

中国の漁船が落としていった。

仮説 3

日本人が中国のウキを買って大度海岸で使い捨てていった。



大度海岸（令和3年11月2日）

仮説 1 の場合

ネットで海流などを調べてみると、中国から沖縄には海流が流れていなくて、海流で流れてきた可能性は低いと考えられます。



仮説 2 の場合

中国の漁船が落としていったとしたら沖縄の近くまで来ていたこととなります。尖閣諸島に中国の漁船が漁をしているということがあれば尖閣諸島から沖縄県までは約 410 キロ。流れてくる可能性は十分あります。



仮説 3 の場合

このウキを日本人が使おうとした場合、ネットで買うはずなのでネットで売っているか調べたら、そのウキは売られていませんでした。そのためこの可能性も低い。

結論

仮説をたててみて一番現実的でありえるのは、仮説 2 だと思います。なぜなら仮説 1 の海流のながれを見てみると、中国から大度海岸に向かって流れている海流が見つからなかったからです。仮説 3 の場合は日本では買えないという点から可能性は低いためです。このことから、中国の漁船が沖縄の近くまで来ていたことになるといえます。新聞やニュースなどで尖閣諸島をめぐるいろいろな話題になっていますので、中国と日本の関係や、海洋についてこれからももう少し調べてみたいなと思いました。今回、ウキからいろいろと考えることが出来ましたが、今後も続けて調査してみたいと思います。

沖縄県立 沖縄水産高等学校



年間学習指導計画					提出年月日	校長	教頭	教頭
					令和3年4月7日			

科目名	総合実習	単位数	6	履修学年・学科	3年船長コース	担当者	大屋 泰彦 印 大嶺 由紀 印
-----	-------------	-----	---	---------	---------	-----	--------------------

科目の目標	水産や海洋の各分野に関する総合的な知識と技術を習得させ、安全を重んじ技術の改善を図るとともに、実務に活用する能力と態度を育てる。
-------	--

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
水産や海洋に関する諸問題について関心を持ち、その改善・向上を目指して意欲的に取り組むと共に、創造性、実践的な態度を身に付けている。	水産や海洋に関する諸問題の解決を目指して自らの思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し創意工夫する能力を身に付けている。	水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、実際の仕事を合理的に計画し、適切に処理すると共に、その成果を的確に表現している。	水産や海洋の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、水産業や海洋関連産業の意義や役割を理解している。

計 画							実 施				
学期	月	各月の学習内容	指導方法・留意点・ねらい	予定 時数	観点別評価基準				使用施設	実時数	改善・反省・工夫点
					関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			
1学期	4	実習準備	小型船舶の整備・点検方法や端艇の整備・塗装方法を習得する。	18	学習内容の重要性に関心を持ち、その実践的な態度を身に付けようとしている。	学習内容について、自らの思考を深め、的確な判断、表現ができています。	学習内容について、的確な動作を行うことができます。	学習内容の意義や重要性をしっかりと理解している。	船長コース実習室 小型船舶 大型実習船舶庫		
		模型工作実習	工作に必要な電動工具や木工具類の使用法や整備・管理法を習得する								
	5	模型工作実習	模型サバニ制作に必要な道具類を作成する	24	学習内容の重要性に関心を持ち、その実践的な態度を身に付けようとしている。	学習内容について、自らの思考を深め、的確な判断、表現ができています。	学習内容について、的確な動作を行うことができます。	学習内容の意義や重要性をしっかりと理解している。			
		小型船舶操船実習	一級小型船舶実技教習(発航前点検)								
	6	乗船実習	大型実習船「海邦丸」における遠洋航海実習にて航海術、運用術及び漁業実習などを学ぶ	21	学習内容の重要性に関心を持ち、その実践的な態度を身に付けようとしている。	学習内容について、自らの思考を深め、的確な判断、表現ができています。	学習内容について、的確な動作を行うことができます。	学習内容の意義や重要性をしっかりと理解している。			
		乗船実習	大型実習船「海邦丸」における遠洋航海実習にて航海術、運用術及び漁業実習などを学ぶ								
7	乗船実習	大型実習船「海邦丸」における遠洋航海実習にて航海術、運用術及び漁業実習などを学ぶ	21	学習内容の重要性に関心を持ち、その実践的な態度を身に付けようとしている。	学習内容について、自らの思考を深め、的確な判断、表現ができています。	学習内容について、的確な動作を行うことができます。	学習内容の意義や重要性をしっかりと理解している。				
	乗船実習	大型実習船「海邦丸」における遠洋航海実習にて航海術、運用術及び漁業実習などを学ぶ									
2学期	9	模型工作実習	サバニの外板及び船底部材を作成	21	学習内容の重要性に関心を持ち、その実践的な態度を身に付けようとしている。	学習内容について、自らの思考を深め、的確な判断、表現ができています。	学習内容について、的確な動作を行うことができます。	学習内容の意義や重要性をしっかりと理解している。			
		小型船舶操船実習	一級小型船舶実技教習(基本操縦訓練)								
	10	模型工作実習	サバニの外板及び船底部材を作成	24	学習内容の重要性に関心を持ち、その実践的な態度を身に付けようとしている。	学習内容について、自らの思考を深め、的確な判断、表現ができています。	学習内容について、的確な動作を行うことができます。	学習内容の意義や重要性をしっかりと理解している。			
		小型船舶操船実習	一級小型船舶実技教習(基本操縦訓練)								
	11	模型工作実習	船首、船尾部材作成	24	学習内容の重要性に関心を持ち、その実践的な態度を身に付けようとしている。	学習内容について、自らの思考を深め、的確な判断、表現ができています。	学習内容について、的確な動作を行うことができます。	学習内容の意義や重要性をしっかりと理解している。			
		小型船舶操船実習	一級小型船舶実技教習(応用操縦訓練)								
12	模型工作実習	マスト、帆、エーク、ユートイ作成	21	学習内容の重要性に関心を持ち、その実践的な態度を身に付けようとしている。	学習内容について、自らの思考を深め、的確な判断、表現ができています。	学習内容について、的確な動作を行うことができます。	学習内容の意義や重要性をしっかりと理解している。				
	小型船舶操船実習	一級小型船舶実技教習(応用操縦訓練)									
3学期	1	模型工作実習	塗装仕上げ	24	学習内容の重要性に関心を持ち、その実践的な態度を身に付けようとしている。	学習内容について、自らの思考を深め、的確な判断、表現ができています。	学習内容について、的確な動作を行うことができます。	学習内容の意義や重要性をしっかりと理解している。			
		小型船舶操船実習	一級小型船舶実技教習(実技試験)								
	2	漁具実習Ⅲ	ワイヤーロープの取扱い及び、加工法を習得	12	学習内容の重要性に関心を持ち、その実践的な態度を身に付けようとしている。	学習内容について、自らの思考を深め、的確な判断、表現ができています。	学習内容について、的確な動作を行うことができます。	学習内容の意義や重要性をしっかりと理解している。			
		漁具実習Ⅲ	エイトロープの取扱い及び、加工法を習得								
授業総時数				210							

年間学習指導計画						提出年月日	校長	教頭	教頭
						令和3年4月27日			

科目名	課題研究	単位数	3	履修学年・学科	3年・海洋技術科	担当者	大屋 泰彦 ・ 大嶺 由紀 印
-----	------	-----	---	---------	----------	-----	-----------------

科目の目標	水産や海洋に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態
-------	--

計 画										実 施	
学期	月	各月の学習内容	指導方法・留意点・ねらい	予定 時数	観点別評価基準				使用施設	実時数	改善・反省・工夫点
					関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解			
1学期	4	研究課題の決定 研究計画書の作成	一年間の研究計画を作成し、研究の見通しを持つ。	9	研究課題に興味・関心を持っているか。	一年間の研究計画を立てることができる。	研究計画を作成することができる。	研究課題について理解している。	研究場 所 及 び 海 技 科 実 習 室		
	5	先行研究調査	研究課題の先行研究を調査し、レビューする。	15	先行研究を積極的に調査している。	先行研究に対して批判的思考ができる。	先行研究についてレビューすることができる。	先行研究内容について理解することができる。			
	6	実態調査	研究対象の実態を調査し、把握する。	12	実態把握と課題抽出に意欲的である。	実態について正確に分析できる。	実態調査から研究方法を策定することができる。	実態調査から研究課題を正確に把握することができる。			
	7	実地調査 及びデータの収集	現場調査し、データの収集を行う。	9	現場調査で、意欲的にデータ収集した。	実地調査の目的と方法を説明することができる。	データを正確に収集することができる。	実地調査の目的を理解している。			
2学期	9	データ解析	収集したデータを分析する。	15	データ解析に関心を持っている。	データ分析方法を説明することができる。	データを分析することができる。	データ分析の目的を理解している。			
	10	結果と考察	分析したデータ結果を取りまとめ、考察する。	15	分析結果について強い関心を持っている。	分析結果について論理的に考察することができる。	分析結果を図や表で表現することができる。	分析結果について正確に解析できる。			
	11	研究成果のまとめ	研究成果を論理的にまとめる。	12	研究成果を論理的にまとめることに意欲的である。	研究成果を論理的にまとめることができる。	研究成果を論理的に表現することができる。	研究成果について正確に説明できる。			
	12	研究発表資料作成 研究発表準備	研究発表資料を作成し、発表練習をおこなう。	9	発表資料作成に意欲的である。	論理的に文章を組立てることができる。	発表資料を作成することができる。	発表内容を理解している。			
3学期	1	海洋技術科課題研究 発表会において発表	研究成果を課題研究発表会にて発表	9	積極的に発表することができる。	研究内容について正確に発表することができる。	発表技法が効果的である。	発表に対する質問に正確に答えることができる。			
	2										
授業総時数				105							

単元名

研究課題の決定および研究計画書の作成

関連する教科

課題研究

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

水産や海洋に関する課題を設定し、一年間の計画を作成し、研究の見通しを持ち、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。また、SDGsを理解し、持続的な社会を目指し何ができるかを考える。

(評価場面・方法)

研究計画書をパワーポイントにて作成し、提出させ、観点別評価を行う。

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

これまで3年間、すべての教科で学んできた知識や技術を統括して、研究テーマを設定、研究計画を作成することで、より探究心を持って授業に取り組むことができる。

(振り返り)

研究の見通しを持ち、どんな一年になるか想像する

3 めあて

専門的な知識と技術を深化させた研究テーマを決め、見通しを持った計画を立てよう

4 本時の展開

導入(20分)

- ・課題研究について
- ・昨年度の課題研究発表(動画)
自分たちに何ができるかを考えながら、先輩の発表からヒントを得る。

展開(100分)

- ・SDGsとは?
2030年までの世界共通の目標
17の目標
世界でつながる活動として何ができるんだろう?
- ・テーマ探し(課題設定)
イメージマップを使って、興味のあるキーワードを見つける
キーワードについて理解を深めて課題を決める
(タブレットを使用し、インターネット等で調べる)
- ・研究計画
ワークシートに月別の計画を立てる
実行可能かどうか話し合う
- ・まとめ
パワーポイントにてテーマと研究計画をまとめる

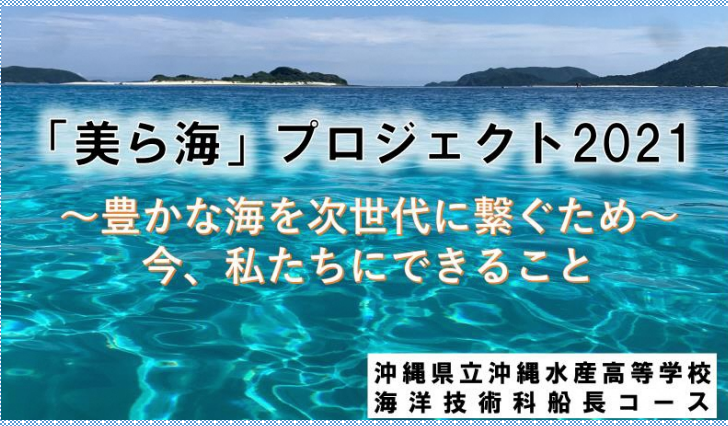
終末(30分)

- ・研究テーマと研究計画を各班別に発表する。
- ・質疑応答
- ・次回の授業内容の確認

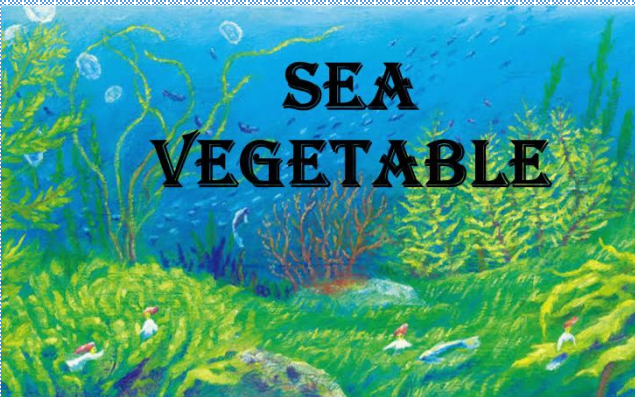
校内課題研究発表会 in 沖水

2021.12.10

今年度、課題研究での調査研究した成果を、全校生徒の前で発表しました。緊張しましたが、練習し、一生懸命伝えました。まとめ、発表するのも大変だと気づきました。今後、私たちの研究が後輩へ引き継がれ、さらに発展させてくれることを願っています。



- 今後の課題
- ①より多くの人に海ゴミ問題を効果的に伝えるにはどのような手段があるか、地元糸満市と協力する。
 →ポスター、展示、アンケート、観光等
 - ②漁師に協力をお願いして、地元の水産物の胃内容物に海ゴミがないか調査する
 →セイイカ、シイラ、マグロ等



- ・沖縄の7月は水温は約29度に達し、実験開始時の約26度に比べ2～3度程高くなったため、海藻は暑さに耐えきれず死んでしまいました。
- ・イソノハナは夏の暑さに耐えられる熱に強い海藻であることが分かった。
- ・海藻は台風などにより強い波にさらされると、固定していた紐から外れネットの編み目から抜けるなどして、養殖が上手くいかないことが分かった。

「美ら海」プロジェクト2021

～豊かな海を次世代に繋ぐため 今、私たちにできること～

沖縄県立沖縄水産高等学校 海洋技術科 船長コース 3年



1. 研究概要

私たち沖縄水産高校海洋技術科船長コースは、普段から海洋について学んだり、実習等で関わる機会が多く、この美しい海を守っていく使命を強く感じている。さらに、授業等で海洋環境が悪化している現実を目の当たりにし、美ら海を守るためには、現状を知る必要性を感じ、近年、国際的に問題視されている「海洋プラスチックゴミ」略して「プラゴミ」について、2019年度より調査・研究をおこなっている。今年度もこれまでに引き続き、発展的な研究をおこない、プラゴミをひとつでも減らすアクションを考えることで、将来、一人ひとりが主体的に行動でき、今よりもプラゴミ問題が改善するのではないかと考えた。

■プラゴミの定義

この研究においては、海洋に漂流または海岸に漂着しているプラスチック及びマイクロプラスチックとする

2. 研究目的

1. 海ゴミの実態を調査する
2. プラゴミ問題を人々に周知し、多くの人々に問題意識を高く持ってもらう
3. SDGsの5項目を達成を目指す

3. 研究方法

■実習船「海邦丸」による調査

1. 漂流ゴミの目視観測調査

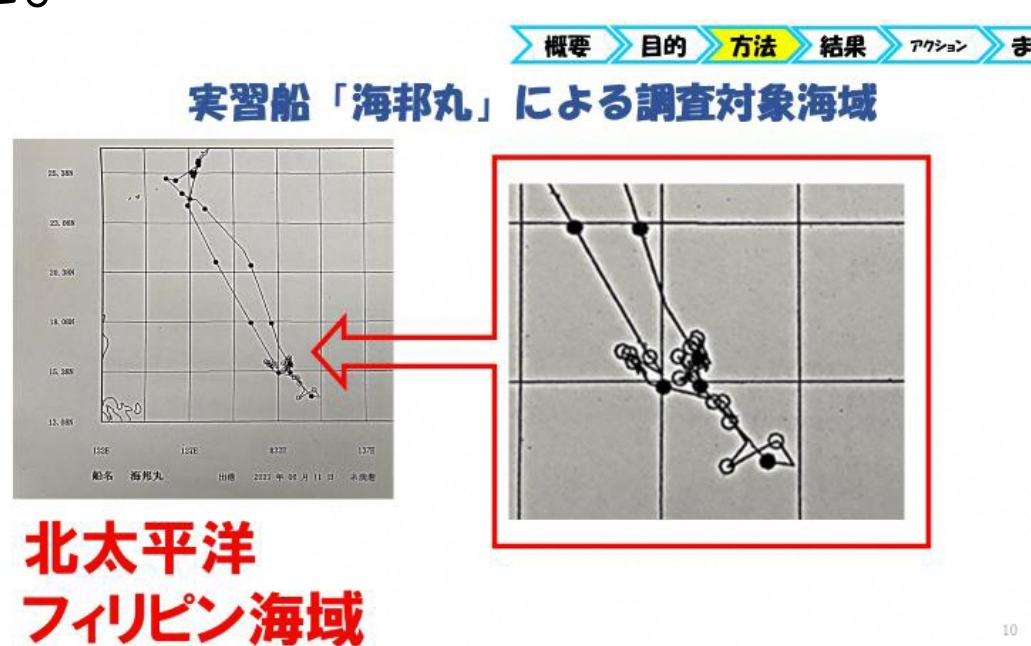
3日間、1時間観測し、船橋から前方に向かって種類を判別し記録した。



写真1 実習船海邦丸

2. 漁獲物の胃袋内容物調査

延縄操業実習にてマグロをはじめとする17個の胃袋を採取し、冷凍した。解凍し、胃袋を開いて、プラゴミの有無を確認した。



北太平洋
フィリピン海域

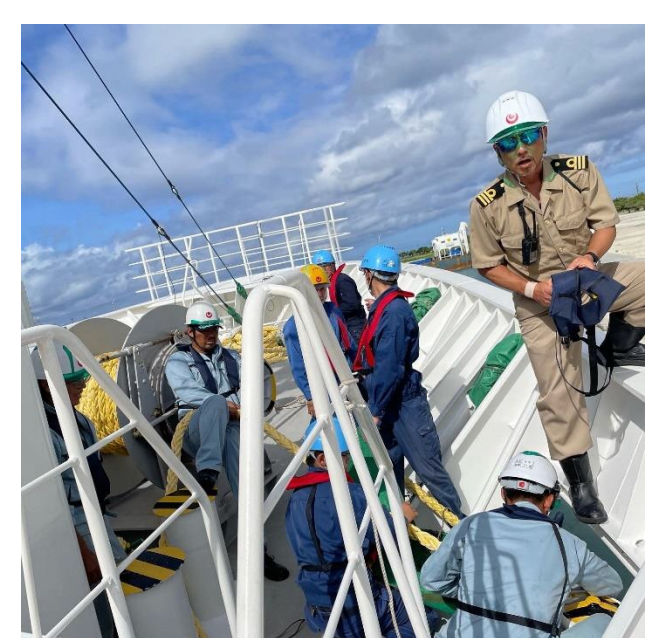
実習船「海邦丸」による調査	
2. 漁獲物の胃袋内容物の調査	
・フウライカジキ	3尾
・トビウオ	4尾
・クロカワカジキ	3尾
・メバチマグロ	1尾
・ミズウオ	2尾
・サワラ	2尾
・赤マンボウ	1尾
計17尾	

4. 研究結果

■実習船「海邦丸」による調査

1. 漂流ゴミの目視観測調査

今年度の目視観測の結果は、天候が悪く目視でゴミを発見することができませんでした。



2. 漁獲物の胃袋内容物調査

実習船「海邦丸」による調査 2. 漁獲物の胃袋内容物の調査

去年の調査では、ミズウオの胃袋からお菓子の袋を発見されました。お菓子のゴミはインドネシア産のゴミということがバーコードにより判明しました。



今年度は電子顕微鏡で探したが、一個も発見できなかった。調査結果を踏まえて、なぜ海ゴミが見つからなかったのか不思議に思った。海ゴミはほかにどのようなところに流れ着いているのかを考えた



5. まとめ

昨年度までの結果と今年度の結果から総合的に考察すると、世界中の海にプラゴミが存在していると推測される。この結果を受けて、世界中の海ゴミ問題を私たち高校生だけでは解決は難しいと感じた。まずは、身近な地域の海ゴミ問題の解決が必要だと考えた。

R3の結果から

海ゴミ問題は、直接的に解決は難しい

↓
地域の海ゴミ問題から解決したい!

6. 行動(action)

1. アクションのための情報収集

沖縄県で那覇の国場川でゴミの調査研究をしている「おきなわ環境クラブ」の方にオンラインで講話を聞き、糸満市の報得川の調査が必要だと考えた。



2. 報得川調査

報得川の上流から調査し、缶やペットボトルが散乱していた。また不法投棄も多く、自転車やタイヤなど粗大ゴミがたくさんあり、川の問題を目の当たりにした。



3. 啓発活動

県内の小・中学校で講話を実施した。子どもたちからは「海を汚さないようにポイ捨てはしない」、「ゴミは拾うようにする」等、海ゴミ問題に対する意識付けができた。



SDGsへの関わり



まとめ

- ・「海ゴミ問題」は沖水生が積極的に考え、アクションをしなくてはならない問題である。
- ・しかし、すぐに解決できない問題でもある。
- ・多くの人へ海ゴミ問題について伝え、アクションをすることを伝えることが大事

今後も小さな行動を続けたい

7. 参考文献

木下是雄. 理科系の作文技術 : 中央公論新社, 1981, 234p.

1 本時のねらい

(身に付けさせたい力)

専門的な知識や技能を活用し、授業や実習内容を児童へ伝え体験をさせる。教えることでこれまでの学習の確認と定着が期待できる。

(評価場面・方法)

どのように教えた方がよいか考え、計画し、それを実践できたかを各自の振り返りシートにて評価する

2 まとめ、振り返り

(まとめ)

プログラムを体験した児童の感想や表情から、教える大変さと喜びを身近に感じ、知識・技術の学びの定着を図る。

(振り返り)

教えることで自分自身が成長することを実感する

3 めあて

これまで学んだ専門的な知識と技術を児童に伝え、水産教育の楽しさを伝えよう

4 本時の展開

導入(20分)

- ・わくわくセカンドスクールの目的の確認
- ・事前シナリオの確認

展開(120分)

- ・隊列訓練
目的と意義
隊列の号令と見本
指揮者が号令を出し、児童が隊列を整える
 - ・ロープワーク
ロープワークとは?
基本的なロープワークを教える
 - ・カッター漕艇
各部名称と号令について
乗船し、離岸
着岸
- ※それぞれ40分交代で3ローテーションする

終末(20分)

- ・体験を通じた振り返りと感想の共有
- ・質疑応答



海洋教育推進プロジェクト

in 糸満青少年の家

2021.7・12

《まぐろ解体ショー》～もっとお魚を食べよう～（地域活性魚食文化推進）

わくわくセカンドスクールにて生徒が主体となり、まぐろの町糸満をPR活性化を目指し《ツナーズ》を結成。3年生が遠洋航海実習で漁獲したまぐろを活用し解体ショーが行われた。小学生たちに如何に興味関心をひかせるか考え、まぐろに関するクイズを交えながらさばき方や部位などを分かりやすく解説を加え、エイサーの曲に合わせて解体が進められた。

解体後には、まぐろ丼の作り方を教え、小学生自身でまぐろ丼を作りみんなで試食した。魚が苦手な子供が食べれるようになったという嬉しい報告などもあり、喜んでもらうことで遣り甲斐を感じ、チームが一つとなり、新たな目標がうまれた。





生徒意見体験発表会

in 沖水
2022.1

 **最優秀賞受賞 1年海洋技術科 航海類型 仲程 旭**

沖縄県水産教育研究会及び、沖縄県高等学校文化連盟が主催となって毎年実施している「令和3年度第23回沖縄県水産高等学校生徒意見体験発表会」はコロナの感染拡大防止のためビデオによる審査発表となった。本校と宮古総合実業高校の水産系生徒を含め6名が発表、上級生のなかただ一人1年生の参加であった。海洋教育推進に向け、一人でも多くの子供たちに海の魅力や魚に興味関心を持ってもらいたい、まぐろの町糸満を世界へPRしたいという思いで「まぐろ解体ショー」に参加した。その時の体験を発表し、見事最優秀を受賞した。



マグロの町糸満 目指せ世界へ

沖縄水産高等学校 海洋技術科 1年 仲程 旭

「今度、マグロ解体ショーをしてみないか」高校一年生の夏、私は先生にこう声をかけられました。私の通う沖縄水産高校のある糸満市は、古くからマグロの町として有名と言うこともあり、このプログラムは海洋技術科が10年ほど前から実施している海洋教育推進プログラムのひとつで、魚食文化を推進し、魚離れが進む子供達に魚のおいしさや魅力を伝えようという目的だそうです。私はそれを聞いて参加してみたいと思いました。新型コロナウイルスの影響もあり、水産高校の生徒としての経験が少なく、何かできないかと思っていた頃にこのプログラムに参加できるチャンスが巡ってきました。水産高校でしかできない貴重な経験であり、普段食べているマグロがどのように解体されるのか興味もあり、ヤル気がこみ上げ参加することを決めました。

まず、仲間を集め、ツナーズというチームを結成し、先生に教えてもらいながらマグロを捌く練習をしました。マグロの大きさ、重さ、迫力は明らかに今まで見てきた魚とは違い、強烈なインパクトがあり、感動しました。仲間達もみんなマグロに釘付けで、マグロには人を惹きつける大きな力があると感じました。小学生達により興味を持ってもらえるように練習の中では様々な工夫を凝らし、司会進行役の私は作成した原稿を覚え、身振り手振りをして工夫をしました。

いよいよ本番当日、目の前にいる小学生達は、「どれくらいの大きさなんだろう。」「早く始まらないかな。」などマグロの登場を楽しみにしている様子でした。マグロをクーラーボックスから取り出すと、歓声があがり、私自身も思わず楽しくなりました。最初に、マグロの生態についてクイズで学んでもらい、プログラムがスタートしました。エイサーの曲に合わせて、マグロの頭を切り落とすところから始まり、背、腹、腹、背の順番で、一枚おろし、二枚おろしと次々に食べられるように解体していきました。小学生達は目をキラキラさせ、マグロに興味津々に観察していました。さらに、トロの部分や、食べ方などを説明すると、面白そうに見たり触ったりしていました。そして、食べられるように捌き終わると、今度は小学生自らマグロ井ぶりを作ってもらいました。最初に私達が、その盛り付け方を教え、小学校の先生に試食してもらおうと小学生達は羨ましそうに「ずるいー。」「俺にも食べさせて。」など早く食べたいと思っている様子が感じ取れ、ほぼ全員が完食してくれました。私達が捌いたマグロは井ぶりだけではなく、余った骨身などはあら汁

となり、様々な調理法で食べることができ、水産物の食育に繋がったと感じています。

今回のプログラムの参加を通して、自分達で考え、進行することに多少の不安はありましたが、仲間と考えたプログラムで小学生達がこんなに盛り上がり、わくわく楽しそうな表情を見ていると、「やって良かった。」と思いました。そして、多くの小学生にマグロの素晴らしさ、美味しさを伝えることができ、とても嬉しかったです。今回使用したマグロは先輩方が遠洋航海実習のマグロ操業で漁獲してきたもので、漁獲する苦労や漁場なども伝えることができました。現在、マグロは非常に高価な水産物のひとつであり、無駄にすることはできません。また、今回のプログラムは、地産地消やマグロを仕入れるコスト削減をし、SDGsのつくる責任、つかう責任を果たす他、海に興味関心を持って貰うことで、海の豊かさを守る事にも繋がると思います。私は、貴重な経験ができ、今後もこの活動を継続したいと思いました。

最後に、私達ツナーズには大きな夢があります。それは、海外でマグロの解体ショーをすることです。世界の人々にこのプログラムを発信し、マグロの美味しさや料理の多様性を知って貰い、あまり魚を食さない国では水産や漁業の魅力を伝え、もっと興味を持って貰いたいです。そうすることで、日本文化や食の豊かさを広めること、世界中の問題である海洋ごみに目を向けることができます。今後は、沖縄の小学生に向けて活動を行いながら県外、そして海外に向け発信したいと考えています。

ツナーズとしての活動を通して学んだことは、学校で魚の特徴や捌き方を学び、自らするべき事を考えて行動をすることが大切ということを知りました。解体ショーを披露することで、水産高校の生徒として誇りを持つことができ、これからの授業や実習へ取り組むモチベーションが上がりました。また、人前に立つということは、リーダーシップが必要で、これらの学びは、海で仕事をしていく私達に必要なスキルであり、将来、私達の強みと励みになって活かされたいと思ひ、今後もスキルを高めていきたいと考えています。

ご清聴ありがとうございました。

海洋教育 成果報告パネル展



糸満市海洋教育パネル展

2021年度
糸満市海洋教育
成果報告パネル展

<期間>
令和4年3月14日(月)
?
令和4年3月18日(金)

<場所>
糸満市役所1F市民ホール



糸満市立糸満小学校



糸満市立糸満南小学校



糸満市立高嶺小学校



糸満市立糸満中学校

